



「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略

2023年3月31日

目次

1. 背景と戦略策定アプローチ	P.2	4. 次年度以降の取り組みについて	P.63
背景と課題		「スケボーのまち まつばら」の実現に向けたステップ	
まちづくり戦略策定のアプローチ		「スケボーのまち まつばら」の事業計画	
協議会・分科会の開催実績		ロードマップ	
2. 「スケボーのまち まつばら」の方向性	P.9	参考資料	P.67
調査設計			
スケートボードの概要（種別・歴史）			
調査結果（内部環境・外部環境）			
「スケボーのまち まつばら」実現に向けた戦略の方向性			
3. 「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略	P.37		
ビジョン策定			
まちづくり戦略の全体像			
アクション一覧			
各アクションの詳細			

1. 背景と戦略策定のアプローチ

本事業は新設される「新スケートボードパーク」を活用して地域の魅力発信や賑わい創出を検討していく政策横断的かつ中長期的なまちづくり事業です

背景と課題

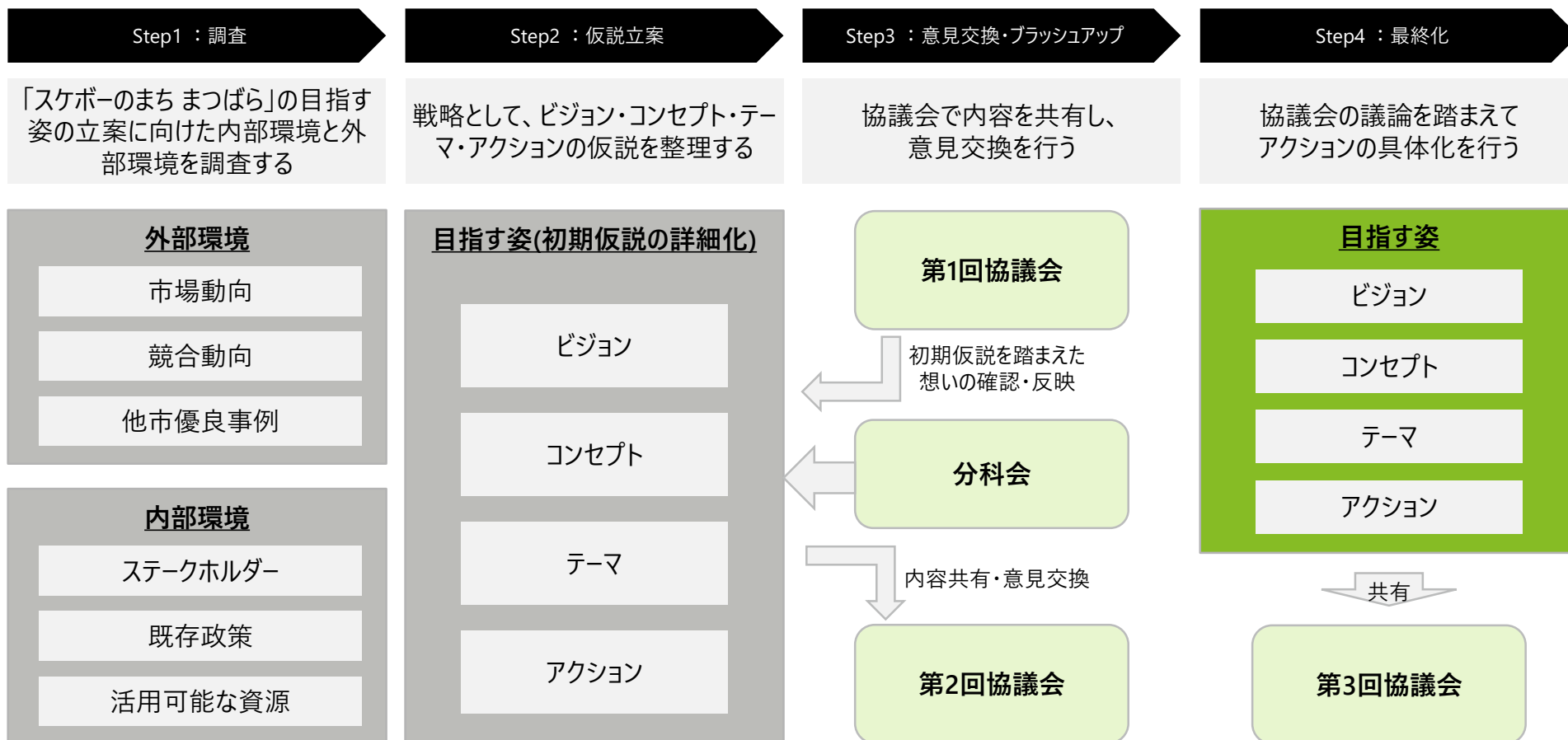
事業背景 及び事業目的

- 松原市において、20～30代の転出超過が課題となっており、これまでも様々な施策を展開してきているところである
- そんな中、地元アスリートである西矢椋選手の東京オリンピックでの活躍により、市内外において、若い世代を中心に、スケートボードにおける人気が高まっている
- 当機会を絶好の好機と捉え、まちの魅力コンテンツであるスケートボードのさらなる魅力向上・発信を行い、市の認知を高め、市外からの若者世代を中心とした人の呼び込みを図るとともに、周辺産業の創出及び市全体への経済的な裨益させることで、松原市が“選ばれるまち”としての持続的な発展に繋げることを目的として事業展開を行っていく
- なお、本事業は地域再生計画（第65回：R4年8月31日認定）に基づく松原市の持続的な成長に繋げていく3か年事業であり、当該地域再生計画との整合性を考慮の上、推進していく

「スケボーのまち まつばら」実現に向けた戦略の策定においては、内部環境・外部環境調査及び協議会で意見交換を図りながら、目指す姿とアクションを整理してきました

まちづくり戦略策定のアプローチ

- 「スケボーのまち まつばら」実現に向けた戦略は、2023年度以降に展開する事業の指針になるものであり、スケボーを取り巻く内部環境や外部環境の動向及び協議会や分科会での意見交換を踏まえて、目指す姿とアクションプランを設定する



協議会委員として、 メディア、観光、施設運営者といった様々な地元プレイヤーに参画いただきました

「スケボーのまち まつばら」の協議会体制

協議会の 位置づけ・役割

- 「スケボーのまち まつばら」実現に向けた方針や施策・個別事業の審議・評価機関として位置づけ、まちづくり実現に向けた事業を推進する役割を担う
- 多様なステークホルダーとまちづくりの方向性を共有し、各種調整を図っていく

協議会体制

委員属性

期待される役割

賑わい創出・観光

✓ 賑わい創出事業の実現に向けた企画の提案・関係機関の調整・実行を担う

施設・拠点

✓ 「スケボーのまち」実現に向けた方針の共有及び拠点の整備・提供協力を担う

教育

✓ 市内教育機関との連携に関わる施策の審議・評価・連携を図る

地元事業者

✓ 「スケボーのまち」実現に向けた方針の共有により、町全体での連携・スケートボードの活用を促進する

スケートボード関連団体

✓ 「スケボーのまち」のさらなる活性化に向けた方針の共有により一体的な施策実行を図る

メディア・プロモーション

✓ 「スケボーのまち」の効果的なプロモーションに向けた助言者としての役割を担う

金融

✓ 事業化に向けた資金的な支援や、事業者のマッチング支援としての役割を担う

外部専門家

✓ スケボーパークに関する知見を基に、他パークとの差別化や優位性に関する助言者としての役割を担う

「スケボーのまち まつばら」実現に向けた戦略は、協議会委員との協議会や分科会を通して トップダウン・ボトムアップの双方向から検討・整理していきました

まちづくり戦略の考え方



協議会は計三回実施し、 「スケボーのまち まつばら」実現に向けた戦略について検討しました

協議会開催スケジュール

	第一回	第二回	第三回
時期	2023年1月31日	2023年2月21日	2023年3月29日
ゴール/目的	<p><u>顔合わせ及びスケボーのまちへの“想い”を確認する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 協議会会員に本事業及び協議会の位置づけについてご理解いただく ✓ 戦略骨子について意見交換を行い、事業の進め方について合意形成を図る ✓ 今後のスケジュールを理解いただく 	<p><u>調査結果および分科会結果から導出した戦略案について意見交換を実施する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 調査結果をもとに、戦略の方向性について、意見交換を行う ✓ オープニングセレモニーの準備状況を共有し、連携・調整を図る 	<p><u>事業成果を確認し、次年度に向けた取り組みの方向性を確認する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 販わい創出事業実施の振り返りを実施する ✓ 戦略の修正点を確認し、次年度の取り組みについて意見交換を行い、合意形成を図る
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顔合わせ ✓ 協議会目的 ✓ 事業スケジュール ✓ 調査項目の共有 ✓ オープニングセレモニーのご案内 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 分科会での討議内容共有 ✓ 調査結果共有 ✓ 「スケボーのまち」実現に向けた戦略討議 ✓ オープニングセレモニー実施概要説明 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業実施報告 ✓ 戦略修正案確認 ✓ 次年度以降の事業の方向性討議
想定時間	✓ 1.5h	✓ 1.5h	✓ 1.5h

分科会では117個の事業アイデアを集めると共に、「スケボーのまち まつばら」に求める機能的・感情的価値を抽出することができました

「スケボーのまち まつばら」に対するイメージ

スケボーのまち まつばら

機能的な価値

スケボーをきっかけとしたハード・ソフト両面からの環境整備によって、「する人」も「しない人」も楽しめる

する人向け

大規模なスケボー大会が開催されている

パークだけでなく色々な場所でスケボーができる

スケボーに関するお店が至る所にある

スケボーのイベントが多数開催されている

ハード面でスケボーに関わるものが揃っている

しない人向け

街中で「スケボーのまち」であることが分かる

スケボーだけでなく安心安全。しない人にとって危なくない

スケボーを見る側も楽しめるイベントや仕掛けがある

感情的な価値

市民が「松原市」に誇りを持ち、スケボーを通して、生活が豊かになる

誇り

スケボー好きな人が住みたくなる。住んでいて楽しい

市民がスケボーに理解がある。スケボーのまちまつばらを応援している

市外からも「スケボーのまち」として知られている

有名なスケボー選手に会える・活躍している

豊かさ

高齢者もスケボーに関わり心身の健康に寄与している

松原市民の様々な人がスケボーに関わり、親しんでいる

行政に「スケボーのまち推進課」がある

色々な企業がスケボーに関わる事業を行っている

Point

単なるパークの整備に限らず、スケボーをきっかけに市民活動が活性化していく実感値を持てるようになることが望ましい
→市民や市内団体の声を聞き、巻き込みながら「スケボーのまち まつばら」を推進していくことが重要

分科会で挙げた117個の事業アイデアは、「参考資料（P67）」以降に掲載

2. 「スケボーのまち まつばら」の方向性

調査は3C(市場・顧客：Customer、競合：Competitor、自社：Company)の観点で顧客・競合・松原市の調査をデスクトップ及びインタビューにより網羅的に収集しました

調査設計

		調査項目	調査方法
市場 (顧客) 調査	市場規模・ トレンド調査	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スケートボードの市場規模や成長率 ✓ スポーツ及び、スケボーに関するトレンドや先進事例 ✓ スポーツによりまちの活性化を行っている先進的な自治体の動向調査 	<ul style="list-style-type: none"> • デスクトップ調査※1 • 現地視察
	ステークホルダー整理	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スケートボードに関係する「する人」「見る人」「支える人」の分類でステークホルダーとして整理 	
	トップ選手・有識者 インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ トップ選手：ターゲットにパークに求める環境、パーク活性化に向けたアドバイス等をヒアリング ✓ 有識者：スポーツによる地域活性化に携わる有識者から、事業の成功要因や課題等をヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> • インタビュー ※2
競合調査	近隣エリア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大阪府のスケートボードパークによる地域活性化を行っている自治体の動向調査 <ul style="list-style-type: none"> • 自治体概要、事業目的、協業体制、公民連携手法、KPI等 • 施設概要、費用、資金調達、稼働率、イベント、成功要因等 	<ul style="list-style-type: none"> • デスクトップ調査 • 現地視察
	地方も含めた 遠方エリア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スケボーにより、まちの活性化を行っている先進的な自治体の動向調査 <ul style="list-style-type: none"> • 自治体概要、事業目的、協業体制、公民連携手法、KPI等 • 施設概要、費用、資金調達、稼働率、イベント、成功要因等 	
自市資源 調査	スケボーに関する 地域資源調査	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「スケボーのまち まつばら」に必要な資源として、潜在価値の発掘と戦略に合致するの資源の双方の調査 <ul style="list-style-type: none"> • 観光地、飲食、宿泊施設、交通網、イベント会場・賑わい拠点、スポーツ大会等 	<ul style="list-style-type: none"> • デスクトップ調査 • 現地視察

※1：デスクトップ調査：公開情報、WEB、SNS等、デジタルチャネルの外部ツールで情報取得

※2：インタビュー：松原市や弊社のネットワークにより対象自治体及び対象者を選出

スケートボードの概要（種別・歴史）

スケートボードは、東京五輪以降には競技として脚光を浴びていますが、音楽やファッション、アート文化と融合したストリートカルチャーとしての側面も有したスポーツです

スケートボードとは

スケートボードとは

- 1940年代にカリフォルニアで木の板に鉄製の戸車を付けて滑った遊びが始まりと言われており、徐々に商品化される中で米国で浸透
- 現代の競技者においても、スポーツという側面に拘らず、**音楽やファッション、アート等、若者文化が融合した遊び・カルチャー**の延長線上のものとして認識している人が多数存在

競技側面

- 前後に車輪がついた板に乗り、トリック（ジャンプ、空中動作、回転等の技）を行い、その技の難易度や高さ、スピード等を評価する採点競技 ※JOC 公益財団法人日本オリンピック委員会より引用
- **2020東京五輪で初めて正式種目として採用**されたことで、スケートボードを競技として楽しむ機運が上昇



松原市出身の西矢選手は、2020東京五輪でストリート・女子に出場し、決勝の舞台では多彩な演技を披露。結果、日本人選手としては最年少で金メダルに輝くという功績をあげた

カルチャー側面

- ストリートカルチャーは、1970年代の米国で流行したヒップホップやスケートボードから誕生していることから分かる通り、**スケートボードと音楽の間には深い結びつき**が存在
- 現在では、**ファッションやアート、映像等も融合**した、スポーツとしては異色のストリートカルチャーを形成



1987～1997年のニューヨークで、ヒップホップとスケートボードが融合していった変遷を振り返るドキュメンタリー映画「All the Streets Are Silent」が2022年に日本で公開された

出所

<https://www.joc.or.jp/games/olympic/tokyo/news/detail.html?id=13651>

<https://www.joc.or.jp/games/olympic/tokyo/news/detail.html?id=13678>

12 <https://fansvoice.jp/2022/07/28/atsas-release/>

スケートボードには、東京五輪で行われた「ストリート」や「パーク」以外にも多様な種別が存在しています

スケートボードの種別

ストリート ※五輪種目

- 街中にあるような段差・手すりや坂道等を模した設置物（セクション）を利用し、技の難易度や独創性、全体の流れを競う種別
- 代表的な選手としては、堀米選手、白井選手、西矢選手、西村選手等



パーク ※五輪種目

- おわんを組み合わせたようなくぼ地状のコースを自由に滑りながら、空中で見せる技の高さや着地、難易度、独創性を競う種別
- 代表的な選手としては、平野選手、四十住選手、開選手等



フリースタイル（フラットランドスケートボード）

- 基本的に平地だけで、スケートボードを立てたり、裏返したり、回転させる等の技を披露する種別



バーチカル

- U字型の湾曲した大型の滑走面を滑り、繰り出す技を披露する種別



スラローム

- 一列に並べたパイロンをすり抜けるように蛇行しながら滑り、そのタイムを競う種別



ダウンヒル

- スケートボードに乗って下り坂を滑り、そのタイムを競う種別



他多数の種別が存在

出所

<https://jfsa.biz/contest-rep/20190818jfsa-1st.html>

<https://fineplay.me/skate/2598/>

<https://passion-sfa.co.jp/alleyoop/photo/detail20140928.html>

13 <https://www.redbull.com/jp-ja/red-bull-side-winders-amane>

東京五輪での日本選手の活躍やストリートカルチャーの魅力によって、スケートボードは国内に定着しており、近年はテクノロジーの進化によって楽しみ方の幅が拡大しています

国内におけるスケートボードの歴史

- 日本は1960年代に輸入されてから10年単位でブームを繰り返しているが、**1990年代以降はストリートカルチャー**としてグラフィックや音楽等の他分野にも進出していったこともあり、**スケートボード文化が徐々に定着**
- 東京五輪で日本人選手が活躍してからは**国内のスケボー人気**がさらに増しており、競技としてスケートボードに取り組む人が増加中。また、文化的な側面においても、**テクノロジーの進化によって楽しみ方の幅が拡大**

～1990年代

- **1960年代にスケートボードが国内に伝わり**、ブームが到来



- 1970年代には、スケートパークが日本各地に誕生した他、情報誌で紹介され、**若者に普及**



1990～2000年代

- 世界ではX game開催される等、**競技会が定期化**されたことで国内のスケートシーンが再構築

- スケートボードが、アートや音楽、ファッション等の分野に進出し、**ストリートカルチャーが流行**

2010年～（現代）

- 2020東京五輪でスケートボードが正式種目に採用。**日本選手が活躍**したことで、ブームが再燃



- スマホや動画配信サイトの普及により、**多くのスケートボード動画が流通**し、ブームを促進



- “迷惑スケボー”と問題視されることもあったが、**競技環境の整備**により、1スポーツとしても浸透



- Azukiが発行した**スケートボードのNFT8点**が合計で約3億6800万円で落札



出所

<https://edition.cnn.com/2022/02/08/sport/gallery/shaun-white-snowboarder/index.html>

<https://www.joc.or.jp/games/olympic/tokyo/news/detail.html?id=13678>

14 <https://www.metaverse-style.com/fashion/9863>

スケートボーダー達は、競技性だけでなく、娯楽、人との交流、健康／成長、移動手段、自己表現といった魅力に惹かれて、スケートボードに熱中しています

スケートボーダーが感じるスケートボードの価値

競技性（技術向上）

大会で結果を残したり、**新しい技を習得することにやりがい**を感じる

娯楽

自分でコースや技を考えながら滑ることで、ストレスを発散したり、**楽しさを感じる**

人との交流

多様なバックグラウンドを持つボーダーと技を教え合ったりすることで、**新たな人間関係を構築**できる



健康／成長

運動不足解消だけでなく、**自立心**や**勇気**、**想像力**も育まれる

移動手段

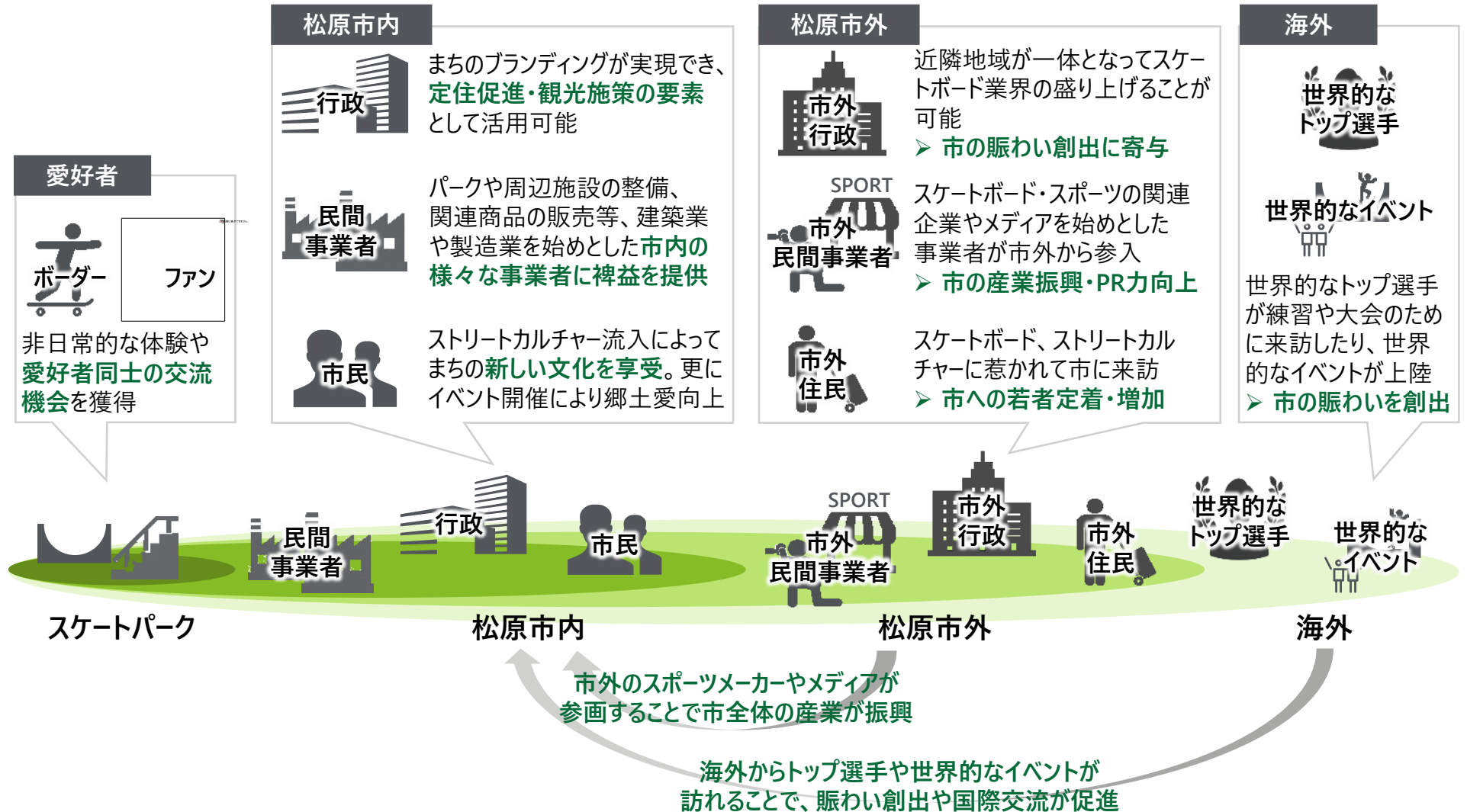
持ち運び可能でスピードも出るため**短距離の移動手段**として利用する

自己表現（ファッション）

自分の滑りや、音楽やアート等を織り交ぜて編集したスケートビデオで**自分の“カッコ良い”を表現**できる

スケートボードは市内の行政、民間、市民に裨益を与えるだけでなく、市外／海外の行政や関連企業、トップ選手等を巻き込むことができ、市の賑わい創出や産業振興に寄与します

スケートボードがまちに与える価値







スケートボード業界には3つのスケートボード団体が存在しており、今後本事業を推進するにあたっては、各団体の特性に合わせて適宜連携を組んでいきます

国内スケートボード団体の概況

	一般社団法人 WORLD SKATE JAPAN (WSJ)	一般社団法人 日本スケートボード協会 (AJSA)	一般社団法人 日本スケートボーディング連盟 (JSF)
組織概要	 <p>公式HP： https://worldskatejapan.or.jp/</p> <ul style="list-style-type: none">■ スケートボード他の国際競技連盟であるWORLD SKATEに加盟している団体■ 東京五輪開催にあたって、スケートボード委員会を設立	 <p>公式HP： http://www.ajsa.jp/</p> <ul style="list-style-type: none">■ 1982年設立。プロアマに関わらず大会を定期的開催しており、その数は年間20以上	 <p>公式HP： https://japan skateboarding federation.jp/</p> <ul style="list-style-type: none">■ 2004年設立。海外とのパイプが強く、選手の派遣等を実施
特徴及び取り組み	<p>トップ選手の世界的な活躍に貢献</p> <ul style="list-style-type: none">■ 全国規模大会の開催<ul style="list-style-type: none">➢ 国際大会出場選手や強化指定選手の選考を兼ねた大会を開催■ 強化指定選手のサポート<ul style="list-style-type: none">➢ 強化指定選手に対し、国際大会への派遣や強化合宿の費用をサポート	<p>スケーターの為にスケーターによる協会として育成環境の整備に貢献</p> <ul style="list-style-type: none">■ プロ資格の発行<ul style="list-style-type: none">➢ 全日本アマチュア選手権を開催し、上位入賞者に新規でプロ公認■ インストラクターの公認事業<ul style="list-style-type: none">➢ インストラクターとしての実務経験や技量を考慮し、ライセンスを発行	<p>多彩なコンテンツを開催し、スケートボードの普及に貢献</p> <ul style="list-style-type: none">■ 多様なスケートボード大会を開催<ul style="list-style-type: none">➢ パークやストリートの他にも、バーチカルやフラットランドの大会も開催■ サマーキャンプやアウトドア体験会も開催<ul style="list-style-type: none">➢ エアマットや動作解析ツールを使用したトレーニングを交えて開催
想定連携内容	トップ選手によるイベントや大規模大会の招致	体験会やスクール運営、トップ選手の育成	パーク・ストリート以外の種別の大会や体験型イベントの開催

スケボーのまちとしての松原市の内部環境及び外部環境を踏まえると、若者世代の転出超過などの弱みに対し、強みや機会を活かした取り組みが必要です

内部環境・外部環境の調査結果サマリ

内部環境	 弱み	<ul style="list-style-type: none">■ 若者の転出超過■ 若者を誘引する観光コンテンツの不足■ 市内のスケートパークが全国大会の開催が不可の規格
	 強み	<ul style="list-style-type: none">■ 西矢選手を始めとした松原市出身の若者の活躍■ スケートパークの新設■ 金網工業、自転車サドル、地ソース等、歴史あるモノづくり産業を始めとした多様な産業■ 数万人が来訪する食イベントを毎年開催■ 2023年秋にも新たな複合施設がオープンする等、週末に多くの人が集まる複合施設が存在
外部環境	 機会	<ul style="list-style-type: none">■ 他スポーツと比べてスケートボードは、競技・ストリートカルチャーの両面を有するが故に、他産業やイベントと高い親和性を発揮■ スケートボード市場・人口・認知度の増加（特に小中学生からの人気上昇）■ 周辺地域のスケートパーク増加
	 脅威	<ul style="list-style-type: none">■ 他地域のスケートボードへの注力度向上■ ストリートで滑るスケートボーダーの迷惑行為

松原市の内部環境

若者の転出超過を解決するためには若者向けコンテンツを作る必要があり、加えて、市内のスケートパークにおいては近隣の広いパークとは違った“売り”を作る必要があります

松原市の課題

若者の転出超過

- 10～19歳未満の人口区分が転入超過となっている一方、20～29歳までの人口区分については転出超過
- 年少から学生等になる時期に転入し、社会人になる時期に転出する傾向が見られ、当該世代への訴求力ある市の魅力が必要

令和3年（2021年）・転入-転出の年代別人数

年代	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
人数	-4	47	-219	17	16	24	32

出所：総務省統計局
「住民基本台帳人口移動報告」

松原市は歴史文化資産を活用した魅力ある観光資源を有するが、若者への訴求力が弱い



竹内街道



古墳史跡

出所
<https://www.city.matsubara.lg.jp/kurashi/kankocitypr/2/5438.html>
https://www.city.matsubara.lg.jp/soshiki/kankou/bunka/2_3/2/4663.html
https://www.city.matsubara.lg.jp/soshiki/michi_midori/3/1/1/3591.html
<https://nagaipark.com/guide/skateboard/>
<https://www.skateboards.jp/school/baraike.html>

松原市のスケートパーク

- 市内のスケートパークは全国大会等を開催できる規格ではないため、全国規模大会を行う場合は、位置づけや開催場所の検討が必要
- 市外には広いパークもあるため、今後差別化に向けた工夫が必要

スポーツパークまつばら



- 面積は約1,150㎡で、初級者を中心としつつ、難易度は全般向けに設計

スケボーパークまつばら



- 面積は屋外約610㎡の初級者向け、屋内約290㎡の中～上級者向けに設計

タイガーラック スケートボードパーク長居



- 面積は約1,600㎡で、初～上級者まで楽しめる、24時間営業のパーク

原池公園スケートボードパーク



- 面積は約2,000㎡で、2021年に増設した初心者向けエリアは民間で設計

市外

(参考) 今春に新設したスケートパークは、初心者も安心のコース設計や天候に左右されない屋内施設を有するため、市内に対するスケートボードの普及啓発に寄与します

(参考) 松原市内にあるスケートパークの概要

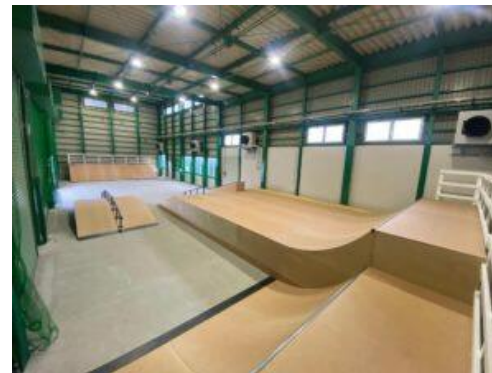
スポーツパークまつばら



- 面積
約1,150㎡
- 設備詳細
屋外スケートパーク（屋外ミニランプ4ft、ミニランプ6ft、バンクtoバンク複合等、BOX、ストレートレール等）
※男女更衣室、シャワー室、駐車場50台、駐輪場70台有

パーク
詳細

おくさま印スケボーパーク（2023年4月オープン）



- 面積
屋外 約610㎡
屋内 約290㎡
- 設備詳細
屋内スケートパーク（特注セクション、バンクH1500等）、屋外スケートパーク（900アール、スラッピー等）、集中トレーニングゾーン（フラットレール、カーブボックス）
※男女更衣室、駐車場10台、駐輪スペース、シェアサイクルステーション有

料金 ■ 全日（9:00~22:00）：550円

- 全日（9:00~23:00）・屋外のみ：550円
- 全日・屋内及び屋外：1100円

場所 ■ 大阪府松原市三宅西7丁目1040番1外

■ 大阪府松原市立部4-270-1

多くの人が集まる松原市のイベントや施設に、市内で新たに盛り上がりを見せるスケートボードを掛け合わせることで、松原市の賑わい創出やシビックプライド醸成に寄与します

松原市の強み（自市資源、市内スケボー関連のホットピック）

既存の自市資源（イベント、施設）

イベント

- まつばらマルシェ（11月上旬）
 - 農商工や産学官が連携した「食」がテーマの地産地消フェア
 - 例年、**4万人以上**が来場
- 松原市民バラフェスティバル（5月中旬）
 - 庁舎のバラを楽しめるだけでなく、コンサートや相撲大会等を開催



施設

- セブンパーク天美
商業とエンターテインメントを融合した複合施設で、**週末には3～4万人**が来店
- 複数の神社
恋みくじで有名な布忍神社や歯の神様がいる柴籬神社等、複数の神社が市内に存在



市内スケボー関連のホットピック

■ 松原市出身の西矢選手が世界で活躍

- **松原市出身の西矢選手**は、2020東京五輪でストリート・女子に出場し、決勝の舞台では多彩な演技を披露。結果、日本人選手としては最年少で金メダルに輝くという功績を獲得



■ 2023年4月から新スケボーパークがオープン

- 2023年4月から、屋外だけでなく屋内施設も整備されたスケボーパークがオープン
- **初級～上級まで幅広い層**が利用できるコースに設計
- 2023年3月にオープニングセレモニーを行い、西矢選手がファーストライド



出所

<http://www.matsubara-cci.or.jp/event/marche2022/info/report.html>

<https://www.walkerplus.com/article/38509/>

<https://www.7andi.com/company/news/release/20239.html>

<https://ao-shrine.com/aboutus/>

22 <https://www.joc.or.jp/games/olympic/tokyo/news/detail.html?id=13651>

(参考) 1年を通して松原市では多くのイベントが開催されており、本事業も連携させることで更なる賑わい創出が見込めます

(参考) 松原市で開催している主なイベント (2022年実施イベントより)



出所
<https://www.walkerplus.com/article/38509/>
<https://ao-shrine.com/event/natunoreitaisai/>
<http://www.matsubara-cci.or.jp/event/marche2022/info/report.html>
<https://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/2022/n5fenj000004zuta.html>
<https://www.hannan-u.ac.jp/club/n5fenj000002pu4.html>

(参考) 松原市内には多様な施設・観光スポットが存在していますが、各所と連携して事業を推進することで、来訪したボーダーの体験価値・消費行動の向上が見込めます

(参考) 市内主要施設のマップ

■ スポーツパークまつばら



■ 「松原天然温泉」You, ゆ〜

本格天然温泉で
宴会室やリラック
ス施設も充実



出所：<http://www.e-ofuro.com/>

■ 河内松原駅

市内で最も乗降
客数が多く、
イベントも多数
開催



■ セブンパーク天美

商業とエンター
テイメントを融合
した複合施設で、
週末には多くの
人が来店



■ 布忍神社

大阪府指定有形文化財であり、通
年で様々なイベントを開催



各所と連携して事業を推進することで
ボーダーの体験価値・消費行動向上

■ 河内大塚山古墳

全国第5位の規
模を誇る大きな
前方後円墳



■ スケボーパークまつばら



■ 竹内街道

松原市域南部を東西
に横断する街道で、最
古の国道として日本
遺産に認定



出所

https://www.city.matsubara.lg.jp/soshiki/michi_midori/3/1/1/3591.html
<http://www.e-ofuro.com/>
https://www.ur-net.go.jp/chintai/kansai/osaka/80_3800_report.html
<https://www.7andi.com/company/news/release/20239.html>
https://www.city.matsubara.lg.jp/soshiki/kankou/bunka/2_3/2/4663.html
<https://www.city.matsubara.lg.jp/soshiki/bunkazai/1/1/4/3008.html>
<https://www.city.matsubara.lg.jp/kurashi/kankocitypr/2/5438.html>

松原市の外部環境

スケートボードは他文化との親和性も高いが故に、他産業とコラボしやすく、イベントの1コンテンツにもなりやすいため、まちづくりの核になりうるスポーツです

松原市の機会（他文化／産業との親和性・賑わい創出事例）

スケートボードと他文化との親和性（以下、再掲内容あり）

- ストリートカルチャーは、1970年代の米国で流行したヒップホップやスケートボードから誕生していることから分かる通り、**スケートボードと音楽の間には深い結びつき**が存在
- 現在では、**ファッションやアート、映像等も融合**したストリートカルチャーとして浸透。一部、迷惑行為を行うスケートボーダーも存在



- 近年では**テクノロジーとの融合**も進んでおり、楽しみ方がさらに多様化
 - スマホや動画配信サイトの普及により、**多くのスケートボード動画が流通**し、ブームを促進
 - Azukiが発行した**スケートボードのNFT8点が合計で約3億6800万円**で落札



出所
<https://fansvoice.jp/2022/07/28/atsas-release/>
<https://www.metaverse-style.com/fashion/9863>
<https://fineplay.me/others/37034/>

26 <https://urbansports.app/2019/04/21/fise-hiroshima-2019-streetfighter-live/>

スケボー×エンタメの賑わい創出事例（FISE 広島）

- 旧広島市民球場跡地に**特設会場を設けて**、スケートボードを含めた全7種目のアーバンスポーツにおける世界大会「FISE WORLD SERIES HIROSHIMA」を開催
- **音楽フェスやグルメフェス、e-sportsの大会も併催**することで、多様な訪問客を誘引し、2019年には**3日間計10万人が来場**



- 世界的なプレイヤーのスリリングな技に多くの来場者が夢中になった

イベントの様子

- eSPORTS Battleもエキシビジョン競技として開催し、多くの観客を誘引した

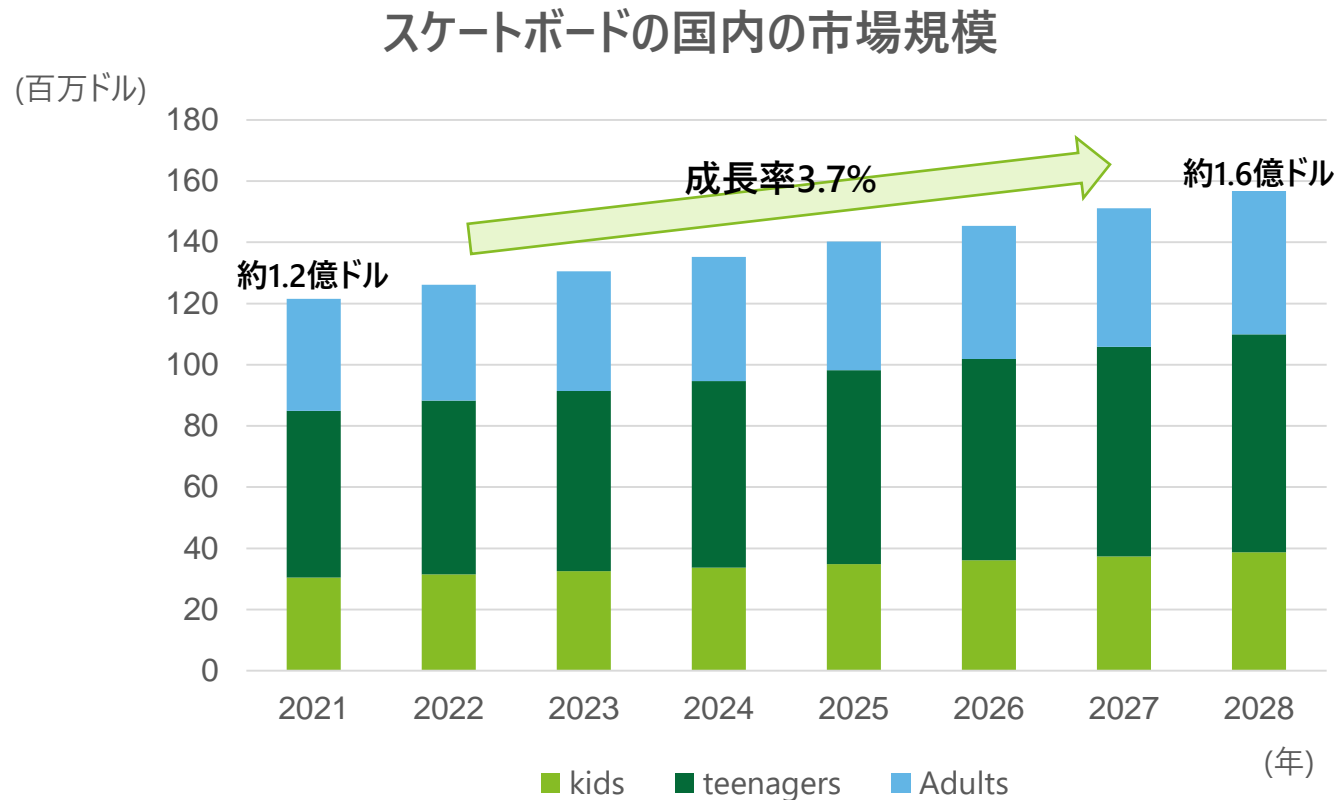


- 会場には広島お好み焼きや焼き牡蠣等の広島グルメを提供するお店が並んだ

スケートボードの国内の市場規模は、2021年の約1.2億ドルから成長率3.7%ペースで拡大し、2028年には約1.6億ドル規模になることが見込まれます

松原市の機会（スケートボードの国内市場規模の予測）

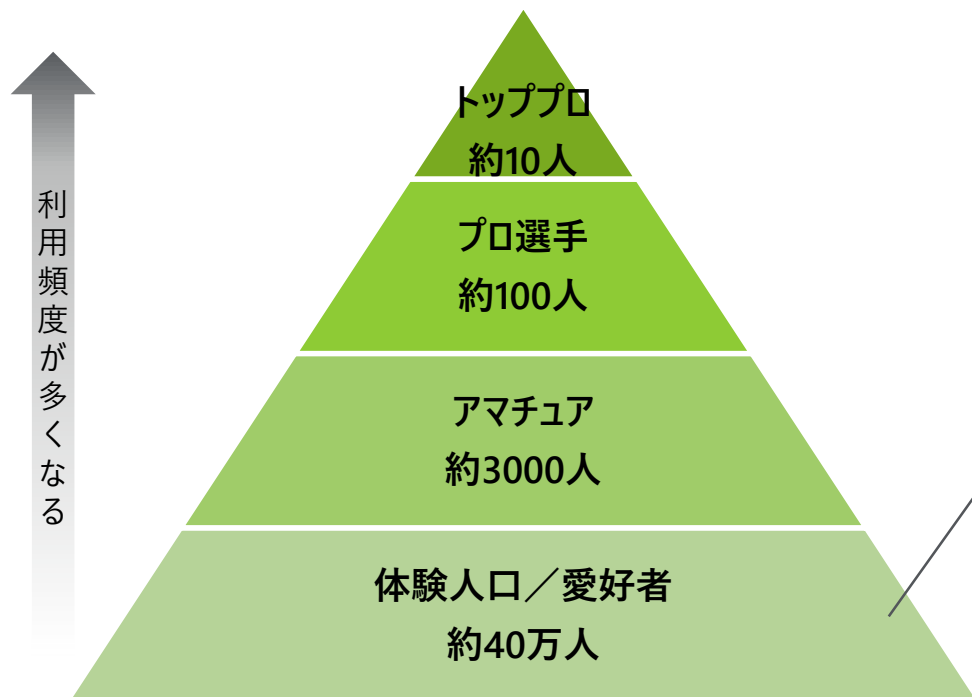
- スケートボードの国内市場規模は、2021年の約1.22億ドルから成長率3.7%ペースで拡大し、2028年には約1.56億ドル規模になると推計
- 12~17歳（Teenagers）の層が市場で存在感を示しており、10代を中心に市場は拡大すると推計



スケートボーダーの人口も増えている中で、その多くがアマチュア層以下のため、本事業もプロ選手以外の幅広い層までアプローチしていくことが効果的です

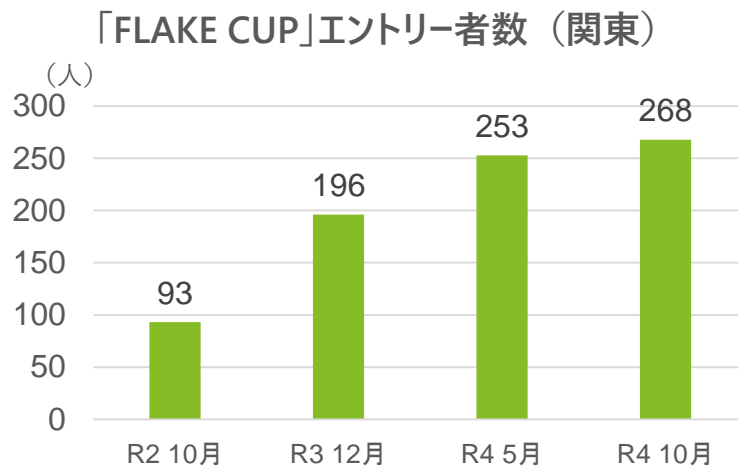
松原市の機会（スケートボードの競技者階層）

- 体験人口／愛好者は正確な人数は不明ではありつつ、かねてより**業界内では約40万人**と推定
- 国内で開催される大会には多くのスケーターが参加するが、スケートボードのみを仕事にしているスケーターはごく一部に過ぎず、**兼業のプロ選手やアマチュアが多数**



■ 東京五輪以降、アマチュア業界でもスケボー人気は急増中

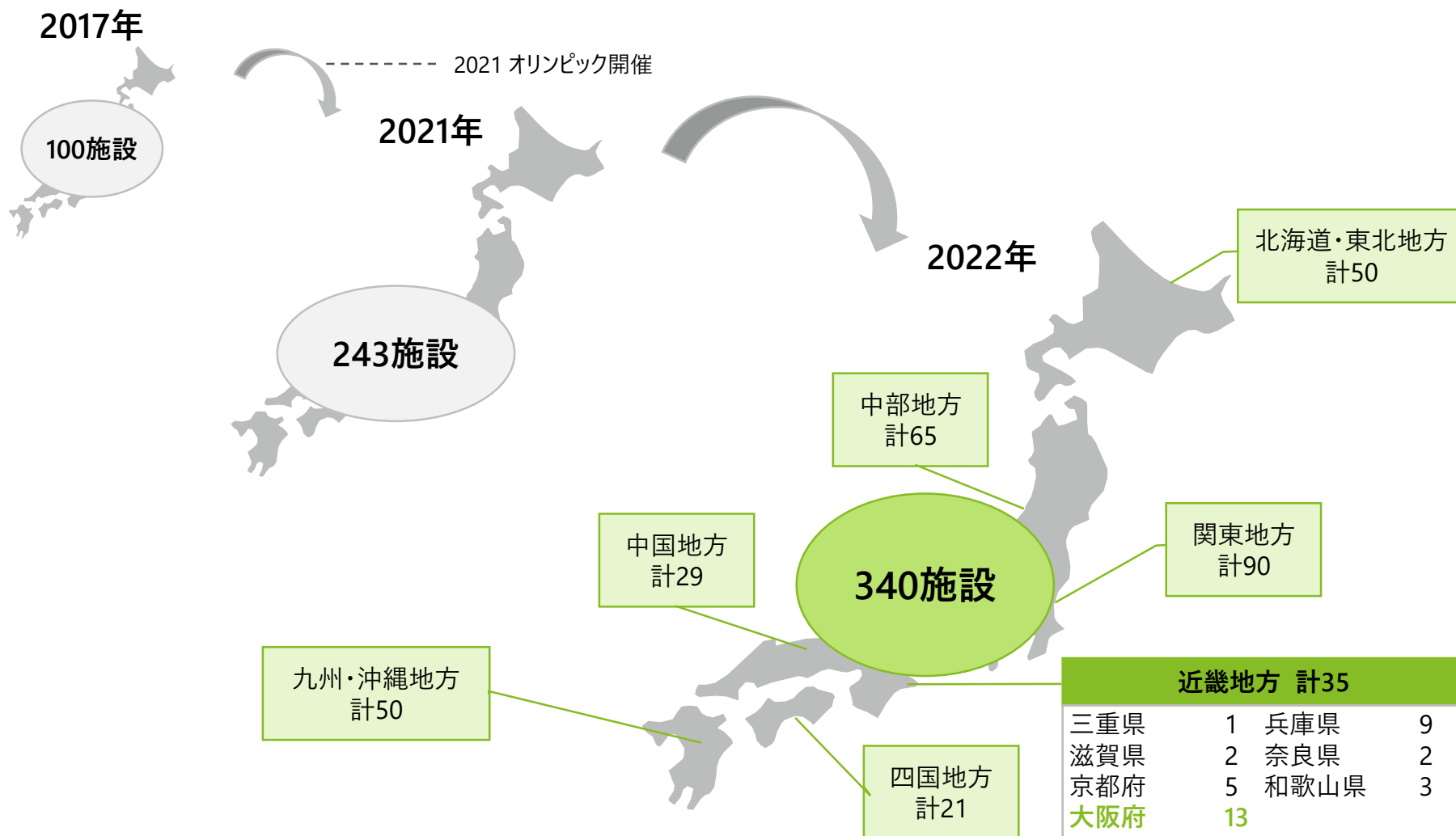
- 日本最大級のキッズ・スケートボードコンテスト「FLAKE CUP」の関東地区におけるエントリー者数は、東京五輪を境に93名から倍以上に急増



各層の特性・傾向に合った施策を打つことで
幅広い層のスケートボーダーから「スケボーのまち まつばら」という認知を得ることが可能

公共スケートパークの数も増加傾向で、2022年5月末では340施設も存在しており、中でも近畿地方では、大阪府が最も多くの公共スケートパークを有しています

松原市の機会（国内公共スケートパーク数の推移）



府内の各市でもパークの整備に注力している反面、ソフト事業の実施事例は少ないため、松原市としてはパーク整備にとどまらず横断的な事業展開をすることで差別化が図れます

松原市の機会・脅威（大阪府の公共スケートボードパーク ※2022年10月27日時点）

#	形態	パーク名	コース難度	料金	場所
①	府営公園	深北緑地	初級～中級	無料	大東市
②		久宝寺緑地	初級	無料	八尾市
③		大泉緑地	全般	無料	堺市
④	市町村公園	長居公園	全般	無料※1	大阪市
⑤		原池公園	全般	有料	堺市
⑥		まなび中央公園	全般	無料	岸和田市
⑦		今池公園	初級～中級	無料	岸和田市
⑧		永楽ゆめの森公園	初級～中級	無料	泉南郡熊取町
⑨		泉南りんくう公園	全般	無料	泉南市
⑩		市町村施設	第一総合運動場	情報なし	無料
⑪	第二総合運動場		情報なし	無料	箕面市
⑫※2	スポーツパークまつばら		全般	有料	松原市

- 長居公園にあるパークは24時間営業で、他にも中上級者向けやショップ併設型等、多様なパークが存在



- ソフト事業としては、コンテストや体験会を実施しており、体験会には地元飲食店をキッチンカーとして招き、出店

- 原池公園にあるパークは、スケートパーク運営のノウハウを有する民間事業者で構成された団体が運営しており、コースの完成度も高いパーク



※1 初回のみ登録料500円

※2 上記12施設のリストは大阪府にて作成されたものであり、私有地における施設は対象外

松原市が近隣地区と差別化を図るためには、スケートボーダーを誘引できるパークを整備しつつ市民を巻き込んだ横断的なソフト事業の展開が必要

出所

https://www.pref.osaka.lg.jp/koen2/osaka_skateboard/index.html

<https://sk8parks.net/>

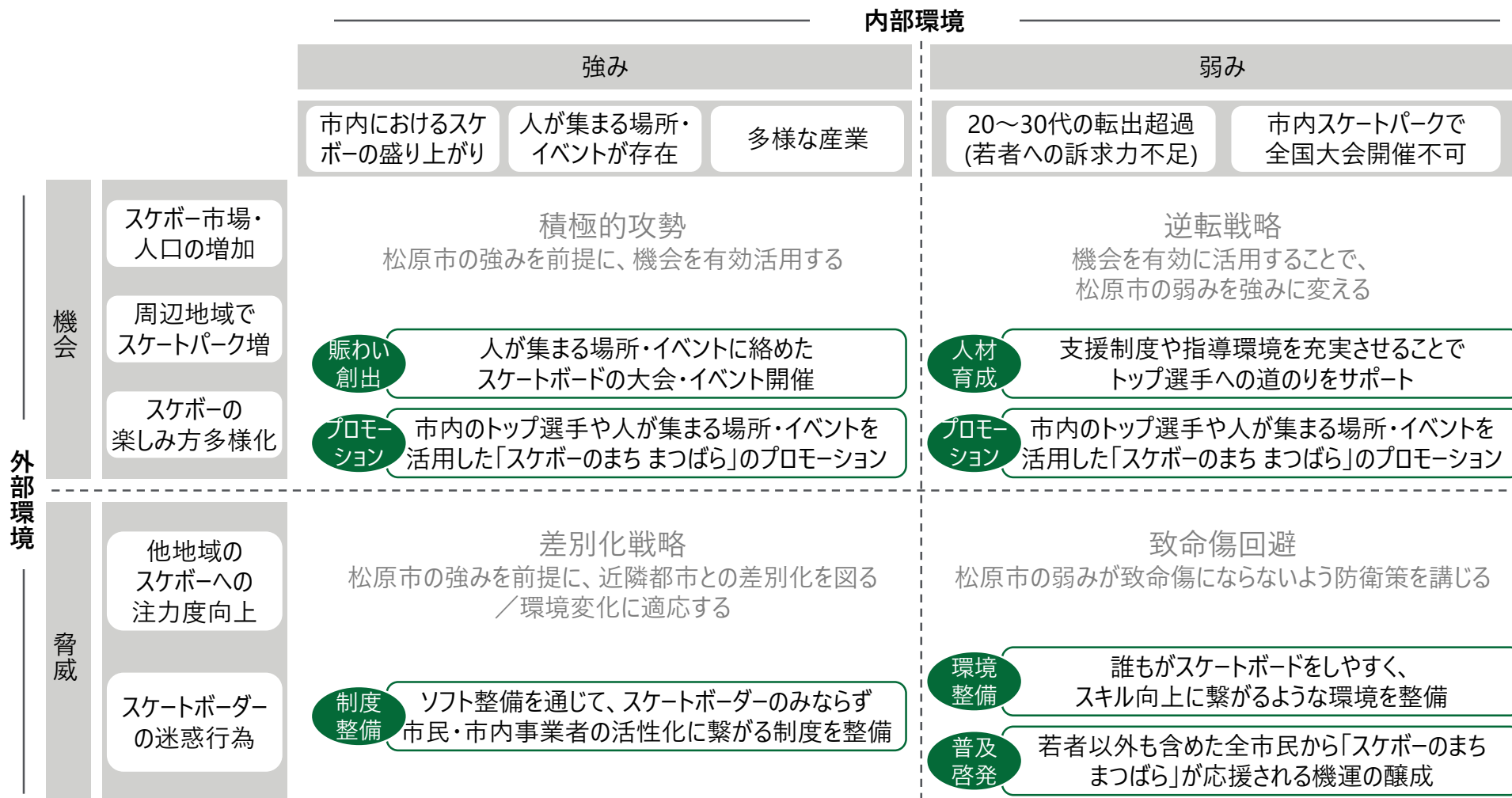
<https://nagaipark.com/guide/skateboard/>

30 <https://www.skateboards.jp/school/baraike.html>

戦略の方向性

内部環境・外部環境それぞれを踏まえて、 松原市独自の取り組むべき事業テーマを導出しました

松原市が今後取り組むべき事業テーマ






具体的なアクションの策定においては、スポーツを活用したまちづくりを行っている他地域に現地調査を行い、参考となるポイントを得ました

現地調査／有識者ヒアリングを踏まえた、アクション策定におけるポイント

	アクション策定におけるポイント	実際の取り組み概要
普及啓発	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロゴの作成／各媒体への掲載による、市民への普及啓発実現 2. 初心者向け大会や出張体験会を開催し、競技人口増加に寄与 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業のロゴを地元デザイン会社が作成し、市からの発信媒体やユニフォームにロゴを掲載 2. 参加費無料の初心者向け大会や、お客様がいる場所で体験会やイベントを行うことで、すそ野拡大に貢献
人材育成	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニッチな指導者向け教育をきっかけにして、選手の来訪増加へ寄与 2. 移住した指導者にスクール運営・安全管理を依頼することで、施設の誘引性・安全性向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市外の指導者に向けて講座・研修を行うと同時に、市内の競技環境に触れてもらい、その後の合宿利用に繋がるようなきっかけを提供 2. 地域おこし協力隊として一流アスリートを移住させ、スクール運営や施設の安全管理に従事してもらうことで、施設の誘引性・安全性向上
環境整備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実証事業を実施し、競技環境の優位性を証明することで来訪者増加に寄与 2. 選手向けに既存スペースの使い方を明示することで、利用者増加 3. レベルの高い施設を整備することで、大会・選手・指導者の招致が可能 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育機関を巻き込んで学術的な見地から実証事業を行うことで、競技環境の優位性を証明し、合宿の誘致数を大幅増加 2. 点在していた複数の競技コースをマッピングしたり、既存施設内に順路を作ることで競技コースとして成立させる等の取り組みで利用者増加 3. レベルの高い施設を整備することで、全国大会の招致や、トップ選手のリピート利用、指導者の移住を実現
賑わい創出	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民誰もが参加／協力できるイベントで賑わい創出・普及啓発 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民向けにスポーツイベントを開催したり、大会時に市民からボランティアを募ることで、市全体で賑わいを創出しつつ普及啓発も促進
プロモーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各プレイヤーの特性を踏まえた、プロモーション戦略の策定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選手には教育機関が関わった実証事業や食事メニューを売りに、アマチュア層には観光情報も含みながら合宿を誘致。また、競技団体とコラボする中で、競技団体の発信力を活かして、幅広いリーチを獲得
制度整備 (産業振興)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 綿密なコミュニケーションによる地元事業者とのWinWinな関係性構築 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的に地元事業者からの意見を聴取し、食×スポーツの事業や、宿泊施設とのコラボを実現。また、大会時には参加者へのPR効果を踏まえて、地元飲食店等が出店して収益獲得

(参考) 全国には、スケートボードを活用してまちづくりをしている事例はありますが、域内住民や事業者全体まで巻き込んだ規模感までは未だ実現できていません

(参考) デスクトップ調査を行ったスケートボード×まちづくりの事例

	代表的な施設 (以下、2023/4時点の施設情報)	代表的な取り組み／実績
神奈川県 寒川町	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設名称 THE PARK SAMUKAWA ■ 利用料金 (一般) 2H：1,000円 ■ 利用できる種目 BMX、スケートボード 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2019年にBMX、スケボー、ブレイキンの世界大会を招致し、3日間で延べ約2.5万人が来場 ■ 世界的スケートボーダーにパーク設計を依頼し、世界で戦える選手の育成を目指して民間施設としてスケートパークをオープン ■ 上記施設の設立にあたっては、クラウドファンディングを実施。2か月弱で81名の支援者が集まり、100万円以上を調達
茨城県 笠間市	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設名称 ムラサキパークかさま ■ 利用料金 (一般) 平日：700円 ■ 利用できる種目 スケートボード、BMX、ストライダー等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 左記施設は2021/4にオープンさせ、入場者の大半が若年層且つ入場者の9割を市外から獲得 ■ 左記施設にて、アートとスケートボードをコラボさせたイベントや日本選手権を開催し、多くの人を集客 ■ ネーミングライツの導入や指定管理制度、企業版ふるさと納税を活用し、資金を調達
東京都 江東区	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設名称 夢の島スケートボードパーク ■ 利用料金 (一般) 全日：450円 ■ 利用できる種目 スケートボード 	<ul style="list-style-type: none"> ■ パーク設立にあたっては、堀米選手に協力を要請 <ul style="list-style-type: none"> ➢ パークのオープニングイベントとして、堀米雄斗選手主催で、若いスケーターを対象としたデモコンテスト&スクールを開催 ■ 「ガバメントクラウドファンディング」を実施し、36の法人と個人104人から集まった約4000万円を整備費として調達

出所：

<https://www.thepark-samukawa.com/>

<https://www.town.samukawa.kanagawa.jp/material/files/group/11/siryoku4arku.pdf>

<https://camp-fire.jp/projects/view/327280>

<https://www.murasaki.co.jp/brand/ridelifemag-murasaki-sports/shop/murasaki-park-kasama/5e90d9c3-ee29-40e4-ac21-b2b9b428a435/detail>

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000831932.pdf

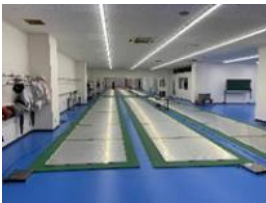


<http://signs-d.ne.jp/article/symdirect/>

<https://www.city.koto.lg.jp/104010/20221021.html>

<https://www.city.koto.lg.jp/104010/kanran.html>

(参考) 同様に、スポーツを活用してまちづくりをしている事例はありますが、域内住民や事業者全体まで巻き込んだ規模感までは未だ実現できていません

(参考) デスクトップ調査を行ったスポーツ×まちづくりの事例

	代表的な施設／場所 (以下、2023/4時点の施設情報)	代表的な取り組み／実績
静岡県 沼津市	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設名称 F3BASE ■ 利用料金 (一般) 3H: 4500円 ※入場料別 ■ 設備情報 フェンシングゾーン、フリースペース等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「フェンシングのまち沼津」のブランド形成に向けた取り組みを推進するために「フェンシングのまち沼津推進協議会」を官民連携で設立 ■ 合宿や大会の誘致に注力しており、R4年度は既に国内大規模大会1件、日本代表合宿2件を招致 ■ 体験会や練習会、トップ選手育成も積極的に実施しており、フェンシングの全中では、サーブル個人で男女共に沼津の選手が優勝
岩手県 紫波町	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設名称 オガールベース オガールアリーナ ■ 設備情報 更衣室、シャワー・大浴場 (宿泊者限定)、カフェ、レストラン、ウェイトトレーニング室 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紫波町・バレーボール協会・企業及び団体が三位一体となったバレーボールでつながるまちプロジェクトを立ち上げ ■ 日本トップリーグ (Vリーグ) 及び東北バレーボールリーグを開催し、多くの人を誘引 ■ 企業版ふるさと納税では、R4年度は11社、R3年度は9社から寄付を受けており、他の資金調達方法も用いながら持続性高く運営
埼玉県 小鹿野町	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設名称 クライミングパーク神怡館 ■ 競技場の利用料金 (一般) 1日: 1500~1800円 ■ 設備情報 クライミングウォール、キッズスペース等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内ロッククライマーから人気の岩場である二子山の岩壁にて、レベル別にクライミングルートを設計。また、小鹿野クライミング協会と町の消防署の間で、危険な場所や救助時の誘導方法等を検討 ■ 町民にクライミングの魅力を伝えるべく、世界的プロクライマーが中心となって国内ボルダリング施設をオープン

出所

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/fencing/base/index.htm>

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/fencing/project/index.htm>

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/fencing/competition/index.htm>

https://www.city.numazu.shizuoka.jp/fencing/training/pnf_kekka.htm

<https://www.iwate-sc.jp/facilities/オガールベース%E3%80%80オガールアリーナ>

<https://iwate-vc.com/project/>

<https://iwate-vc.com/sports/>

<https://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/4/2/13/7400.html>

<https://www.town.ogano.lg.jp/crimeshin2/>

35 <https://www.town.ogano.lg.jp/cms/wp-content/uploads/2019/06/1906-0809t.pdf>

(参考) 同様に、スポーツを活用してまちづくりをしている事例はありますが、域内住民や事業者全体まで巻き込んだ規模感では実現できていません

(参考) デスクトップ調査を行ったスポーツ×まちづくりの事例

代表的な施設／場所（以下、2023/4時点の施設情報）

代表的な取り組み／実績

福島県
いわき市



- 施設名称
いわきFCフィールド
- 設備情報
サッカーコート1面、フットサルコート2面
- 試合時の来場者数（2020）
平均1286人、最大1828人

- いわきFCやいわき市、いわき商工会議所を中心とした関係団体で**スポーツによる人・まちづくり推進協議会**を設立
- いわきFCの公式戦に伴って、地元いわきの人気飲食店が出店し、スポーツ体験や音楽ライブ等が行われる**地域活性化・交流イベント「いわきドリームチャレンジ」**を開催

北海道
北見市



- 施設名称
アドヴィックス常呂カーリングホール
- 競技場の利用料金（一般）
1H：1400円
- 域内情報
競技シート×6、観客席186席等

- **競技力向上支援システム**を導入したアルゴグラフィックス北見カーリングホールを2020/10に新設
- 北見市のカーリングホールで大会を実施したり、**北見市民によるリーグ戦を開催**することで、競技者のスキルアップに貢献
 - ロコ・ソラーレ北見が、2022北京五輪で銀メダルを獲得

出所

<https://iwakifc.com/field.php>

https://iwakifc.com/news/20171012_1.php

https://iwakifc.com/news/2020/1029_016192.php

<https://www.city.kitami.lg.jp/administration/town/detail.php?content=3600>

<https://www.kitami-curlinghall.info/>

36 <http://www.kitamicurling.info/aaa/>

3. 「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略

松原市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性にも則りつつ、協議会委員からの意見を踏まえ、「スケボーのまち まつばら」のビジョンを導出しました

ビジョン策定

松原市まち・ひと・しごと創生総合戦略

協議会で議論した「スケボーのまち まつばら」の価値

協議会では、スケボーをする環境が整っており、市民が「スケボーのまち まつばら」に誇りを持ち、スケボーをきっかけに市民活動が活性化し生活が豊かであることを実感する状態が望ましいとの意見が出た

生涯を通じて「安心」して暮らせる「まち」をつくる

松原市で生まれ、松原市で学び、松原市で働くそして、松原市で家庭を築き、松原市で子どもを産み育てるという好循環を創る

誰もが「健やかに」暮らし、若い世代が、結婚・出産・子育ての希望をかなえ、未来を担う「ひと」をつくる

多様な「魅力」の創出と若者の働く意欲に答えられる「しごと」をつくる

+

感情的な価値

市民が「松原市」に誇りを持ち、スケボーを通して、生活が豊かになる

機能的な価値

スケボーをきっかけとしたハード・ソフト両面からの環境整備によって、「する人」も「しない人」も楽しめる

「スケボーのまち まつばら」のビジョン

スケボーを通じた“つながり”が豊かな生活のきっかけを創出し、誇りに思える「松原市」を実現する

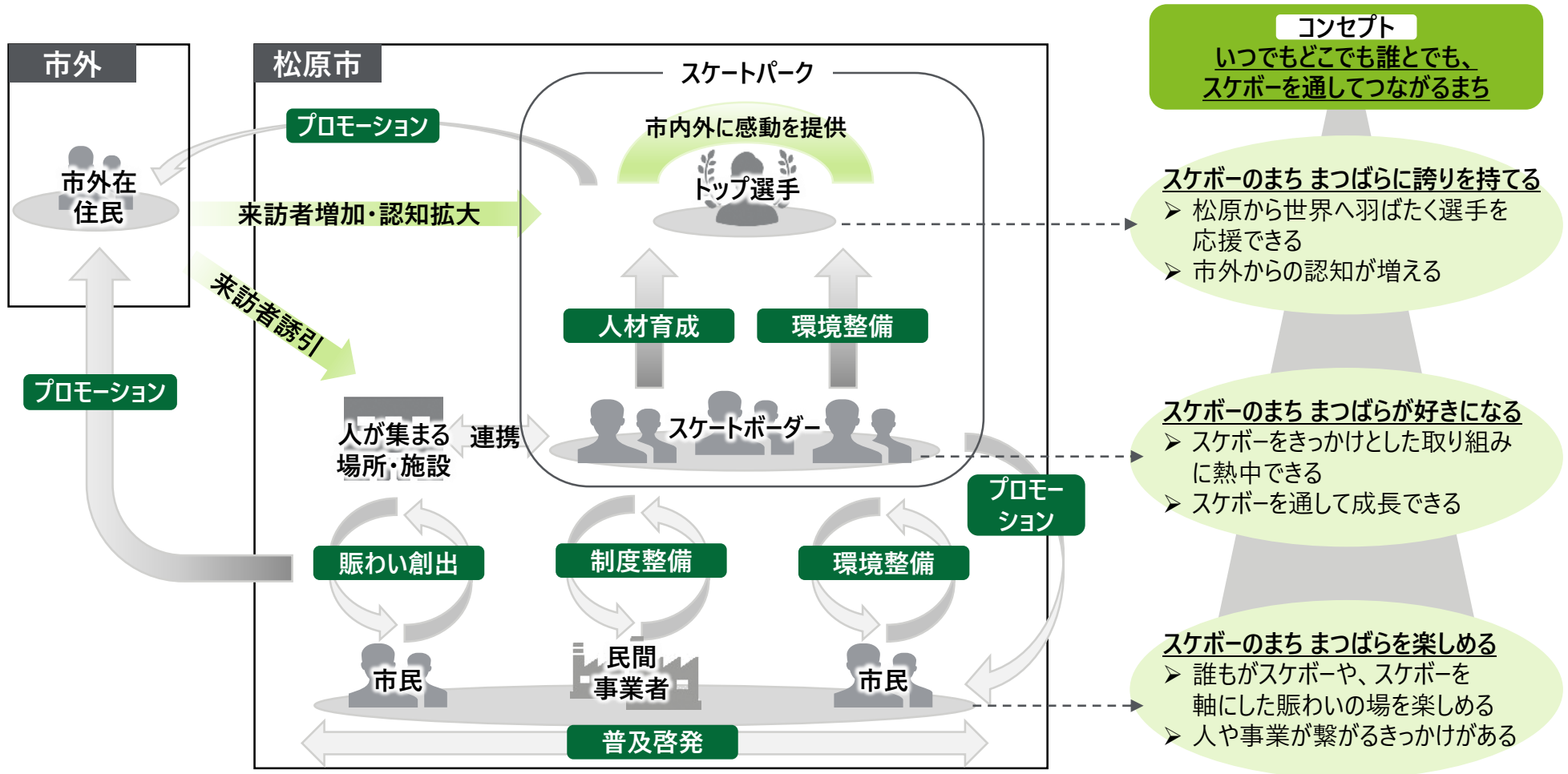
スケートボードをきっかけとした総合的な取り組みにより、活動の好循環を生み出すことで、ビジョンの実現を目指します

ビジョンの実現イメージ

ビジョン

スケボーを通じた“つながり”が豊かな生活のきっかけを創出し、誇りに思える「松原市」を実現する

ビジョン実現に向けて取り組むべき事業テーマとコンセプト



「スケボーのまち まつばら」はスケボーを中心としたハード・ソフトの両面からのまちづくり事業により、松原市民を中心につながりが増大・発展していくことを目指します

まちづくり戦略の全体像



15個のアクションを総合的に実施し、アクション同士が有機的に絡み合うことで「スケボーのまち まつばら」のビジョンが実現します

アクション

テーマ	方針	アクション	概要
普及啓発	競技人口増加	1 学校連携	松原市内の教育機関と連携したスケボー教室等の開催と地域クラブチームとの連携によるスケボー部の設立
		2 賑わいの場での体験会	人の集まる場（商業施設・公園・イベント等）での体験会開催
	理解醸成	3 スケボールール制定	スケボーをする人もしない人も快適に暮らせるためのルールを制定
人材育成	選手	4 強化指定制度の構築	全競技共通で、トップ選手への資金・PRの援助を行い、トップ選手の市への継続的な関与を仕組化
	指導者	5 地域おこし協力隊の活用	第一線で活躍するアスリートや有識者に移住を促し、「スケボーのまち まつばら」関連施策を推進に要する人材を確保
環境整備	交通網	6 松原市内の交通網整備	シェアサイクルの設備拡充、市内巡回バスの開通等、パークへの動線整備
	パーク	7 先端技術の導入	撮影・編集・動きの分析までを一貫して行える多視点カメラをパークへ導入
		8 パーク壁面へのアート	新パークの壁面にアートを施行
市内空きスペース	9 スケボー拠点整備	市内の公園や空き地、学校、複合型施設にスケボーができるスペースを確保し、近所で気軽にスケボーができる状態を実現	
賑わい創出	大会	10 スケボー大会開催	松原市民や大阪府内のスケートボーダーが集まる大会を開催
	イベント	11 市内イベント連携	市内イベントとスケボーをコラボにより主に松原市民と近隣の市民へ「スケボーのまち まつばら」を浸透。また、事業×スケボーのパイロットの場として活用
プロモーション	インナープロモーション	12 市内に向けたPR	協力者・応援者を増やすことを目的とし、市民の誰もが使える「スケボーのまち まつばら」のロゴや、ポスター等の制作・市内展開。モニタリングのための「スケボーのまち まつばら」の認知度調査等を実施
	アウトプロモーション	13 市外に向けたPR	「スケボーのまち まつばら」のPV等の各種PRコンテンツも作成し、市外へ発信
制度整備	産業振興	14 新規事業開発支援	「スケボーのまち まつばら」を活用した事業開発に向けて企業の巻き込みを促進・新規事業の公募の仕組み作り
	資金確保	15 資金確保制度の充実	「スケボーのまち まつばら」に係る事業費の財源確保のため、寄付メリットを整理し、メニューの充実化を画策

「普及啓発」では松原市内におけるスケボー人口の増加と、現時点でスケボーに関心がない層に対してもスケボーに対する理解醸成を狙います

テーマ：普及啓発

普及啓発とは

松原市内におけるスケボー人口の増加と、現時点でスケボーに関心がない層に対してもスケボーに対する理解醸成を狙う

	競技人口増加	理解醸成
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 松原市民に対して、性別年齢を問わずスケボーをする機会を提供し、競技人口を増加させる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「スケボーのまち まつばら」を誰もが楽しめる仕組みや制度を整備する
初期事業選定方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 競技人口増に効果的である小中学生をファーストターゲットにしつつ、市民全体への展開も図る 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 松原市民全体にまずはスケボーに関する理解をしてもらう
アクション	<p>1 学校連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 松原市内の教育機関と連携したスケボー教室や部活、社会科見学等で、学校と連携する 	<p>2 賑わいの場での体験会</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 商業施設や公園等、松原市内の人の集まる場所でスケボー体験会を開催することで、松原市民全体へアプローチを図る
	<p>3 スケボールール</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ スケボーをする人もしない人も快適に過ごせる松原市を目指して、スケボーに関する約束事をルールとして制定する ➢ 競技人口が増えてから、制定に着手する想定である 	

教育機関との連携により小中学生にアプローチを行うことで、松原市内の競技人口を増加させ、すそ野の拡大を狙います

アクション【1】学校連携

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 松原市内の教育機関と連携したスケボー普及活動を実施する
目的	<ul style="list-style-type: none"> 松原市内における競技人口増加。特にスポーツへの入り口として小中学生へアプローチ
KPI	<ul style="list-style-type: none"> スケボー教室・土曜体験活動の開催件数 地域クラブチームと部活の連携件数 パークへの新規来訪者数
ステークホルダーと役割	
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会：学校連携施策の実施検討 学校教育部：各教育機関・校長会との協議、取り纏め 教育機関：施策の受け入れ スケボークラブ：企画・開催 パーク（指定管理）：企画・開催 	
収益	<ul style="list-style-type: none"> パーク誘導によるパーク利用料 クラブ誘導による会費
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> スケボー教室を授業及び土曜体験活動を実施する場合、受け入れを行う教育機関の選定、開催場所（パーク・校庭・体育館等）、開催頻度（教育課程で実施するとなるとより慎重な議論が必要） 怪我等に対する保護者の不安を払拭する方法（例：「スケボーのまちまつばら」のチラシやプロモーションビデオを提供することで並行して理解を深める）
施策	
<p>ステークホルダーにて検討会を立上げ、施策案の①～⑥を参考に実施する施策を検討する</p> <p>【学校連携の施策案】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業時間内にスケボー教室を開催 ② 土曜体験活動（市内の15校で実施）を活用したスケボー教室 ③ スケボーパークへの遠足・社会科見学 ④ 地域クラブチームと連携したスケボー部設立 ⑤ 学校への遊具としてスケボーを配布 ⑥ スケボー教室開催時に、保護者へ「スケボーのまちまつばら」のパンフレット配布やプロモーションビデオにより、スケボーへの理解醸成を促進 	
<p>行政 — パーク 教育機関 — スケボークラブ</p> <p>→</p> <p>保護者 子どもたち</p> <p>✓スケボーへの理解 ✓スケボーへの興味喚起 ✓「スケボーのまちまつばら」の認知</p> <p>施策の企画・実施</p>	
コスト	<ul style="list-style-type: none"> スケボー教室開催費用（スケボークラブへの委託費） 物品（教室参加者分のスケボー、ヘルメット、膝当て等）

松原市内の賑わいの場でスケボーの体験会を開催し、 スケボーに関心のある層の取り込みと「スケボーのまち まつばら」の普及にも繋がります

アクション【2】賑わいの場での体験会

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 松原市内の人が集まる場でスケボーの体験会を開催する 	施策	<p>PSJにて実施している既存の体験会を活かして、賑わいの場（商業施設・公園・学校等）で体験会を開催する。また、体験会の開催頻度の増加を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 場所はセブンパーク天美や公園・公共施設を想定 人が集まる場所やイベント会場で開催し、スケボーに興味がない層にもアプローチをできるようにする 参加者だけではなく、観覧者に対しても「スケボーのまち まつばら」としての訴求を行う <div data-bbox="1098 685 1916 992" style="text-align: center;"> <p>体験会の開催</p> <pre> graph TD A[行政] --- B[スケボークラブ] A --- C[場の提供] B --- C D[参加者] E[賑わいの場への来場者] D --- E </pre> <p>✓セブンパーク天美 ✓公園・公民館 ✓駅前広場</p> <p>参加者 ✓スケボーへの興味喚起</p> <p>賑わいの場への来場者 ✓スケボーへの理解 ✓「スケボーのまち まつばら」の認知</p> </div>
目的	<ul style="list-style-type: none"> 市民全体に対してスケボーに触れ合う機会を提供 		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 体験会開催件数 体験会参加者数 パークへの誘導数 		
ステークホルダーと役割			
<ul style="list-style-type: none"> スケボークラブ：体験会の企画・開催 商業施設：場の提供、イベント周知 都市整備部：場の提供（公園） 			
収益	<ul style="list-style-type: none"> パーク誘導によるパーク利用料 クラブ誘導による会費 	コスト <ul style="list-style-type: none"> 体験会開催のための費用（スケボークラブへの委託費） 場所代（商業施設、公共施設） 	
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 体験会の開催場所の検討（セブンパーク天美（通常時・イベント開催時）、中央公園・市民運動公園、市内のイベント等） 体験会の開催頻度 市民・参加者への広告・宣伝方法 体験会開催にかかる費用の分担（市の公園で実施する場合は場所代は無料） 大会参加者のパークへの誘導方法 		

スケボーをする人もしない人も双方にとって心地よい関係を築き、 住みやすい松原市の実現のため、スケボーに関するルールを策定します

アクション【3】スケボールール制定

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> スケボーをする人にとってはマナー、しない人にとってはスケボーに対する理解醸成となるルールを制定する
目的	<ul style="list-style-type: none"> スケボーをする人もしない人も心地よく生活できる
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ルールの認知率・普及率・定着率 スケボーに関する称賛件数・苦情件数

ステークホルダーと役割

- 市役所：ルールの内容検討、普及方法検討、必要に応じて条例化
- スケボークラブ：ルールの内容検討
- 教育機関：子どもたちへの周知
- 商工会議所：企業へのポスター掲示依頼等

収益	<ul style="list-style-type: none"> 対象外
----	---

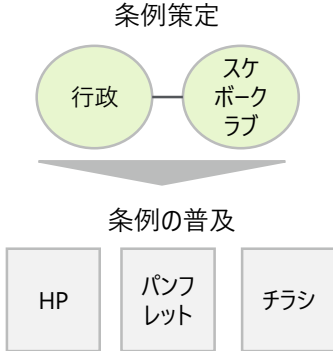
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 条例、規則、ルール等、どの形式で制定をするのが良いか（スケボー条例とすることで、話題性が高まりプロモーションの効果もある） ルールを出すタイミング（競技人口が増えてからルール・条例を出す） ルールを出した後の、普及・定着に向けた活動 認知率・普及率、定着率等KPIの取得方法の検討（施策の実施前後で市民アンケート実施を検討）
-------	---

施策

ステークホルダーにて検討会を立上げ、スケボーに関わる約束事をルールとして制定する。また、制定したルールを市民に普及・定着させる

- まずはルールとして策定し、必要に応じ規則化・条例化を行う
- 見る人にとって「スケボーに厳しいまち」ではなく、「スケボーと共存するまち」と分かる内容にする

条例策定



条例の普及

スケボールール例

- 夜 8 時以降は滑らない
- 滑る場所は決まったところ
- ヘルメットを着用しよう
- ゴミは持って帰ろう

コスト	<ul style="list-style-type: none"> 普及費用（HP掲載、パンフレット・チラシ作成）
-----	---

	概要	議会承認	住民拘束力
条例	地方公共団体が法令の範囲内で議会の議決により制定	必要	罰則を制定することも可能
規則	地方公共団体の長が法令の範囲内で制定する法形式の名称	なし	罰則を制定することも可能、秩序罰である5万円以下の過料
ルール	「規則」や「きまり」のこと	なし	なし

「人材育成」では、スケボーの選手、指導者の双方に対する支援により、選手の強化、指導者の増加を狙います

テーマ：人材育成

人材育成とは

スケボーの選手、指導者の双方に対する支援により、選手の強化、指導者の増加を狙う

	選手	指導者
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 松原市内のトップスケートボード選手の強化支援を行う ✓ トップ選手を輩出するための仕組みを整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 松原市内における指導者・インストラクターの増加支援を行う ✓ 地域とスケボーの連携を推進できる人材を確保する
初期事業選定方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ まずはトップ選手の定義づけを実施する（レベルの定義づけ） ✓ そのうえで必要な支援を整理し、他施策や他スポーツとの連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 民間と連携し、市内における指導者の育成を図りつつ、市として、他事業への展開を見据え、推進力を有するトップ選手や有識者等を招聘する
アクション	4 強化指定制度の構築	5 地域おこし協力隊の活用
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 選手自身の松原市へのシビックプライドの醸成と、PRを図り、トップ選手の市への継続的な関与を仕組化する (例)強化指定の定義づけを実施し、対象選手を抽出。 松原市の選手が海外遠征をする時の松原がんばる市民応援基金や各種奨学金制度と企業のPRを紐づけ、仕組化する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 第一線で活躍するアスリートや有識者に移住してもらい、地域おこし協力隊としてスクールの開催や選手および指導者の強化・育成のための制度を整備する

トップ選手と、市民・市内事業者をつなぐ仕組みとして強化指定制度を設けることで、市内のスポーツ文化の醸成に寄与する育成基盤を構築します

アクション【4】強化指定制度の構築

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> • トップ選手の排出基盤となる強化指定制度を実施する • 他施策等と連携し、金銭面PR面での支援を実施する 	施策
目的	<ul style="list-style-type: none"> • 選手の支援及び市内のスポーツ文化の醸成の両面に寄与する育成基盤の構築 	
KPI	<ul style="list-style-type: none"> • スケボー強化指定選手人数 • 強化指定選手の市内イベント出演回数 	コスト <ul style="list-style-type: none"> • トップ選手への支援資金（遠征費等） • 広告費
ステークホルダーと役割		
<ul style="list-style-type: none"> • 松原市役所/市民協働部：制度の主管 • 市長公室：松原がんばる市民応援基金との連携 • スケボークラブ：強化指定選手選定基準への助言 • 松原市体育協会 		
収益	<ul style="list-style-type: none"> • トップ選手のPR・グッズ販売 	
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> • トップ選手への具体的な支援内容の検討 • 寄付企業への還元内容 	

トップ選手・指導者を地域おこし協力隊として招聘し、「スケボーのまち まつばら」を推進する人材を確保することで、事業の実現を目指します

アクション【5】地域おこし協力隊の活用

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 松原市内における指導者・インストラクターの増加支援を行う 地域とスケボーの連携を推進できる人材を確保する 	施策	
目的	<ul style="list-style-type: none"> 民間と連携し、市内における指導者の育成を図りつつ、市として、他事業への展開を見据え、推進力を有するトップ選手や有識者等を招聘 	関連するステークホルダーにより検討会を立上げ、地域おこし協力隊の誘致の実現に向けた検討を行う	
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の登用者数 	地域おこし協力隊とは <ul style="list-style-type: none"> 総務省が主管の制度で、<u>地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、地域での生活や地域社会貢献に意欲のある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的としている</u> 	
ステークホルダーと役割			
<ul style="list-style-type: none"> 松原市役所/市民協働部：制度の主管 指定管理事業者：施設活用における連携 スケボー市業者：スケボー施策との連携 <div data-bbox="1065 654 1964 1011" style="text-align: center;"> <pre> graph TD A("スケボー×地域おこし協力隊") --- B("行政") A --- C("地域・市内事業者") B --- C </pre> </div>			
収益	<ul style="list-style-type: none"> なし 	コスト <ul style="list-style-type: none"> 隊員の募集に係る経費 隊員への給与（特別交付税） 	
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 担当部局の選定 隊員募集に係る条件の検討 		

「環境整備」では、松原市内で誰もがスケボーをしやすい環境整備と松原市ならではのパークの整備により他パークとの差別化を行います

テーマ：環境整備

環境整備とは

松原市内で誰もがスケボーをしやすい環境整備と松原市ならではのパークの整備による差別化を行う

	交通網	パーク	市内空きスペース	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市内外からパークまでの移動手段を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他都市との差別化された特色あるパークとして整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ パーク以外にスケボーができるスペースを整備する 	
初期事業選定方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市内にて安心して移動できる環境を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市内のパークを利用するスケートボーダーに周辺地域のパークと違った体験を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ファーストターゲットである市内の小中学生の行動範囲内に環境を整備する 	
アクション	<p>6 松原市内の交通網整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 交通網の利用状況調査、ニーズ把握を行う ➢ ニーズに基づく交通網の整備（シェアサイクルや巡回バス等）を検討する 	<p>7 最先端技術の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 撮影・編集・動きの分析までを一貫して行える多視点カメラをパークへ導入。保存した動画やデータを販売し、収益を獲得する ➢ データを活かしたスキル向上や撮影動画のSNS拡散も狙う 	<p>8 パーク壁面へのアート</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新パークの壁面にアートを施し、カルチャーとスポーツの融合を体現する 	<p>9 スケボースペースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市内の公園や空き地等で、スケートボードが滑れるスペースを設定・スケボーOKな場所を認定する ➢ 学校や複合型施設等の中で、スケボーができるスペースを確保する

スケボーパークまで安心・気軽に移動できるような交通手段を整備します

アクション【6】松原市内の交通網整備

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> スケートパーク付近のシェアサイクル・キックボードスポットを設置・拡充する スケボーパークを巡回するバスを整備する
目的	<ul style="list-style-type: none"> 松原市民が安心してパークに移動できる環境を整備することで利用者増加
KPI	<ul style="list-style-type: none"> パークへの来場者数 交通網の利用者数

ステークホルダーと役割

- 指定管理事業者：パーク周辺の交通環境最適化検討
- 松原市都市整備部：交通網（ぐるりん号）整備に関する検討・意思決定
- バス事業者：巡回バス開通に関する検討
- シェアサイクル事業者：シェアサイクル設置に関する検討
- 近隣の企業・商業施設：駐車場としての利用可否検討

収益	<ul style="list-style-type: none"> パーク利用料 移動手段の利用料
-----------	--

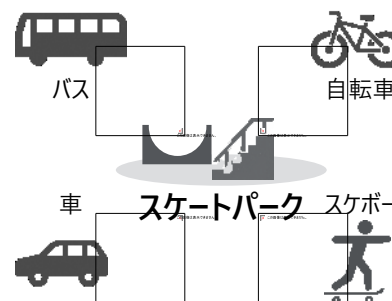
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> バス導入の場合、既存バスの活用か新規バスの導入か、またルート、利用料、事業性の検討を実施 バス事業は収支のシミュレーションを綿密に行う必要があるため、パークの利用目標者数、実績来場者数等を踏まえて検討実施（ぐるりん号は1時間に1本程度かつ市民の社会参画を目的に公共施設を巡回しているため用途に適さない可能性がある） シェアサイクル・キックボードについてはステーションの場所、利用料金、導入スケジュールの検討
--------------	---

施策

ステークホルダーによる検討会を立上げ、交通網の利用状況や利用者のニーズを調査の上、①～⑥を参考に実施する施策について検討を行う

【交通網整備の施策案】

- ① シェアサイクル・シェアキックボード等のステーション設置（一部実施中）
- ② 既存のバス（ぐるりんバス・巡回バス）のパーク近隣のバス停設置
- ③ パークへのスクールバス設置、駅からパークへの直行バスの設置
- ④ 近隣の駐車場、駐輪場を整備
- ⑤ 乗り合いバスの導入
- ⑥ パーク周辺道路へのスケボーレーン



ぐるりん号や小型のバスで市内を巡回



シェアサイクルのステーションを市内に拡充

コスト	<ul style="list-style-type: none"> 整備費（各移動手段の停留所設置、乗り物購入費） 維持費（ガソリン代、メンテナンス代、人件費）
------------	---

市内外のスケートボーダーの来訪数を増やすためのパークの差別化施策として、 撮影・編集・動きの分析までを一貫して行える多視点カメラをパークへ導入します

アクション【7】最先端技術の導入

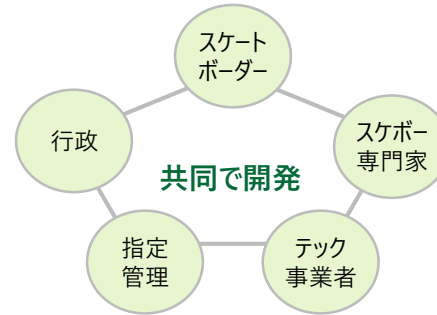
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 撮影・編集・動きの分析までを一貫して行える多視点カメラをパークへ導入する
目的	<ul style="list-style-type: none"> パークの差別化施策により、市内外のスケートボーダーのパーク来訪数増加
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 先端技術サービスの利用者数 SNS等の自発的な拡散数

ステークホルダーと役割

- 指定管理事業者：パーク整備に関する意思決定
- 松原市みち・みどり整備課：整備業務事業者との連携
- スポーツテック事業者：導入するIT設備の監修・整備
- スケートボード専門家：整備環境の監修
- スケートボーダー：パークの先行体験、レビュー

施策

- 新規パークの差別化に向けて、ステークホルダーにて検討会を立上げ、要件整理及び事業者選定を実施し、実証実験に向けた準備を行う
- 選手の動きを様々な角度で撮影できるように、パーク内に複数のカメラを設置する
 - 選手はプレー後に動画とデータを確認できる
(大型モニターを設置してパーク内に流すことも要検討)
 - 映像のダウンロード等、来訪者が自発的にSNSへ投稿する仕組みを取り入れる



多視点カメラで自分の体の動きを確認
※ミヤシタパークで実証事例有

収益	<ul style="list-style-type: none"> パーク利用料 サービス利用料
----	---

コスト	<ul style="list-style-type: none"> 初期費／開発費（設備費、システム開発費） 運用費
-----	---

要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> スケートボーダーが望んでいるサービスについて調査を実施 予算化とスポーツテック事業者の確保の上、実現方法を検討の上、実証実験を実施 導入後の収支シミュレーション（入場者数が増加するか等）と、プロモーション方法の検討
-------	---

パークにグラフィティを施すことで、地域・関心度問わず注目を集めることができ、「スケボーのまち まつばら」のランドマークになります

アクション【8】パーク壁面へのアート

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 市内スケートパークにアーティストがグラフィティを実施し、スケボー無関心層からの興味喚起を促進する
目的	<ul style="list-style-type: none"> 若者を中心に、市内外から「スケボーのまち まつばら」の認知を獲得
KPI	<ul style="list-style-type: none"> パークの認知率 パークの好印象度 SNSへの投稿数
ステークホルダーと役割	
<ul style="list-style-type: none"> 指定管理事業者：実現方法の検討・アート導入時の施設利用案内・アート導入後の維持管理 アーティスト：パークに導入するアート作品の制作 	
収益	<ul style="list-style-type: none"> 作品観覧料 出品料（アーティストにとって、良い露出の場と認識された場合）
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 予算確保 各種アートコンテンツの制作者選定、制作者へのメリット設計 アート導入時期／導入時のオペレーション検討 アート観覧者に消費行動を促進させる方法の検討

施策

- 募集か公募という形でアーティストを選定し、パークへのグラフィティを依頼する
- グラフィティはスケボーに無関心な人からも注目を集めるきっかけとなり、市内外への普及啓発に機能する

```

graph TD
    A[行政] -- 募集or公募 --> B[有志のアーティスト]
    A -- 募集or公募 --> C[Mizuno]
    B --- D[握手]
    C --- D
    D --> E[パークにグラフィティ]
    E --> F[スケボー×アートプロジェクト]
    F --> G[ボーダー]
    F --> H[無関心層]
    G --> I[来訪意欲増加]
    G --> J[自発的なSNSの拡散]
    H --> K[スケボーへの興味喚起]
    
```

パークのセクションや建物自体に絵を描写

コスト

- 募集or公募の宣伝広告費
- 維持費（作品のメンテナンス）

公園や学校、複合型施設等にスケボーを滑れるスペースを市内に多数設け、“近所で気軽にスケボーができるまち”を実現します

アクション【9】スケボースペースの整備

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 市内の公園や空き地、学校、複合型施設等にスケボーができるスペースを確保し、近所で気軽にスケボーができる状態を実現する
目的	<ul style="list-style-type: none"> いつでもどこでも滑れる環境の整備
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 市内のスケボースペース数 スケボースペースの利用者数

ステークホルダーと役割

- 松原市都市整備部：整備業務事業者との連携、スケボースペースの選定
- 整備事業者：スケボースペースの整備
- 教育委員会・教育機関、複合施設、市民：スケボースペースの導入検討
- アドバイザー（スケートボード専門家）：スケボースペースの条件検討

収益	<ul style="list-style-type: none"> 対象外
----	---

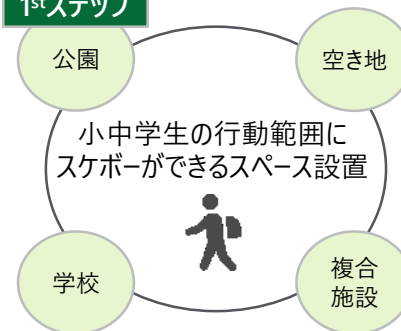
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> スケボースペースの場所の選定、整備スケジュール、整備事業者の選定 安全管理、設備維持方法、利用者へのマナー啓発方法について、アクション [3] スケボールールと並行して検討 近隣住民から理解を得るアプローチ方法。（市民から設置に向けた声が上がると整備に向けて動きやすい） 整備費用の捻出（クラファンやプロモーションと組み合わせる）
-------	--

施策

ステークホルダーによる検討会を立上げ、“スケボーのまち”として市内の各地にスケボーができるスペース設置について検討する

- スペースとしては、下はコンクリで、サイズは20m×30mほどであると良い
- 公園・河川敷・遊歩道が実現可能性が高い。その他、商業施設や私有地等を検討する
- スケボーをしない人にスケボーを見る機会を提供でき、興味喚起に繋がる

1stステップ



まずは、公園や河川敷、遊歩道等にスケボーOKな場所を整備



学校や複合型施設等にも導入を検討

コスト	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備費（コンクリート塗装、小さなセクション設置） 安全管理費（見回りへの人件費、応急処置用備品購入）
-----	---

「賑わい創出」では、スケボー選手の強化・育成に繋がる大会や、スケボーをきっかけとした賑わい創出に繋がるイベントを開催します

テーマ：賑わい創出

賑わい創出とは


スケボーをきっかけとした賑わい創出に繋がる大会やイベントを開催する

	大会	イベント
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 松原市の市民、また大阪府のスケートボーダーが集まりスケボーに親しめる大会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存のイベントとの連携等によるスケボーイベントを開催する
初期事業 選定方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「スケボーのまち まつばら」として、競技人口増加に伴うスケートボーダーの発表の場として開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全国または大阪府等広域へPRができる ✓ 新規事業者にとってパイロットの場となる
アクション	<p>10 スケボー大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 多くの参加者を募れるよう、初心者～上級者、年齢別等、幅広い層が参加できる大会を開催する 	<p>11 市内イベントとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 市内外から大勢集まる既存イベントにスケボーのイベントをコラボさせた企画・運営。スケボーと直接関係がない層に対するアピール。また、スケボー×事業のパイロットの場とする

松原市だからこそできるスケボー大会を開催します

アクション【10】スケボー大会開催

施策概要	• 松原市の市民、また大阪府のスケートボーダーが集まりスケボーに親しめる大会を開催する
目的	• 松原市民がスケボーに親しみ、市外からは「スケボーのまちまつばら」として認知される
KPI	• 松原市内での大会開催 • 大会参加者数 • 観覧者数
ステークホルダーと役割	
<ul style="list-style-type: none">• 行政：大会の取り纏め• 大会運営会社：大会の企画・開催• スケボークラブ：協会との連携、大会企画• 飲食事業者：キッチンカー等	
収益	• 大会参加費、キッチンカー等の関連事業
要検討事項	• 松原市で実施が可能かつ、多くの人が集まる大会の構成を検討（イベントとの同日開催等により集客を見込むことも検討）

施策	
<p>ステークホルダーによる検討会を立上げ、スケボー大会の案である①～④を参考に、開催場所・開催時期を考慮して、大会開催に向けた検討を行う</p> <p>【スケボー大会の案】</p> <ol style="list-style-type: none">① 世代別やランク別等幅広い世代が参加できる大会② パーク外のエリアに特設会場を設けて市民も参加しやすい大会③ 他都市と連携して複数のアーバンスポーツ種目を集めた大会を広域で開催し、大阪府として一体感を持たせた大会④ 優勝者には遠征費用提供等、全国から選手が集まるような選手にとって価値のある大会 <p>【大会開催場所】</p> <ul style="list-style-type: none">• 新パーク・既存のパーク• 特設会場 <p>【大会開催時期】</p> <ul style="list-style-type: none">• 他のイベントと同時期に開催する• 大会のみで開催する	 <p>大規模な大会を開催する場合に、FISE広島のような特設会場の設置や広域型での大会開催を検討</p>
コスト	<ul style="list-style-type: none">• イベント準備・運営・撤収に係る費用• 選手の招待費

松原市民及び大阪府民に「スケボーのまち まつばら」を浸透させるため、多くの人を訪れる既存のイベントにスケボーのコンテンツを拡充したイベントを開催します

アクション【11】市内イベント連携

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外から大勢集まる既存イベントにスケボーのイベントをコラボさせた企画・運営する。スケボーと直接関係がない層に向けてアピールしつつ、スケボー×事業のパイロットの場とする
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・松原市民・松原市近隣の住民に「スケボーのまち まつばら」を浸透
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・スケボーイベント件数 ・参加者数 ・新規事業実施件数

ステークホルダーと役割

- ・イベント会社：イベント企画
- ・行政：関係者取り纏め
- ・商工会議所：関係者取り纏め
- ・スケボークラブ：スケボーイベント企画
- ・メディア：発信、特集
- ・交通、警備会社：運搬、人流制御

収益	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント売上 ・新規事業の売上
----	---

要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・松原市内のどの既存イベントとコラボするか ・イベントの中でどのようなスケボーコンテンツを提供するか
-------	---

施策

ステークホルダーによる検討会を立上げ、既存の松原市のイベントと連携して、スケボーイベント案①②を参考に、府内・全国にPRができる企画を行い、開催する

【既存の松原市のイベント例】

■ 各神社での夏祭り

- ・布忍神社や柴籬神社、阿保神社等で夏祭りが開催され、**府内外からも多くの人**が来訪



■ まつばらマルシェ

- ・農商工や産学官が連携した「食」をテーマとした**地産地消フェア**
- ・例年、**4万人以上**が来場



【スケボーイベント案】

- ① 商店街の一部スペースを開放し、ボードに自由に滑ってもらう
- ② スケボー×飲食等、市内の新規事業のパイロットの場として活用

コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・トップ選手の招待費 ・イベント準備・運営・撤収に係る費用
-----	--

「プロモーション」では松原市民へのプロモーションと、市外に向けたプロモーションにより「スケボーのまち まつばら」の認知率を向上させます

テーマ：プロモーション

プロモーションとは

松原市民へのプロモーションと市外に向けたプロモーションにより「スケボーのまち まつばら」の認知率を向上させる

	市内向けプロモーション	市外向けプロモーション
概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市民や市内事業者からの認知拡大や、協力者／応援者を生み出すために、市民に刺さる情報を発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市外からの認知拡大 & 来訪者増加のために、「スケボーのまち まつばら」における取り組みや、トップ選手の活躍を発信する
初期事業選定方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市民の目が届きやすい場所・媒体で、地元事業者と協業しながら制作したPRコンテンツを発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市外の若いスケートボーダーが松原市の取り組みを拡散したくなるような、“行政っぽくない”PRコンテンツを発信する
アクション	12 市内向けPR	13 市外向けPR
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 市内複合施設や商店街、広報誌等に本事業のロゴやイベント情報等を掲載する ➢ コンテンツの制作や制作物の掲載には市内事業者を巻き込むことで、市内の協力者／応援者増加を狙う 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「スケボーのまち まつばら」を紹介するPVを作成・発信したり、各種SNSで情報を発信する。有名スケートボーダーや有名フィルマーを起用する等で、若者に魅力あるコンテンツにすることが重要となる

市内事業者と協力しながら、市民向けのプロモーション戦略の立案と施策の実施により市民の「スケボーのまち まつばら」の認知度を高め、ファン化を狙います

アクション【12】市内向けPR

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> プロモーション戦略を策定し、市民に向けたプロモーション活動を行い市民のファン化を図る 	施策
目的	<ul style="list-style-type: none"> 市民の「スケボーのまち まつばら」の認知向上と協力や応援をしてくれる市民／事業者を獲得 	
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 市民の「スケボーのまち まつばら」の認知度 	
ステークホルダーと役割		
<ul style="list-style-type: none"> 松原市広報課：広報誌の作成 プロモーション事業者：プロモーション方針の制定、ロゴの制作、パンフレット・チラシの作成 商工会議所：市内事業者の紹介 		
収益	<ul style="list-style-type: none"> 対象外（パーク利用料） 	コスト <ul style="list-style-type: none"> 各種PRコンテンツの制作料 市民の認知度を調査する費用
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 戦略に基づいたプロモーション戦略の制定 各種PRコンテンツの選定と制作者選定 市民の「スケボーのまち まつばら」の認知率調査（施策実施前・中・後） 	

ステークホルダーによる検討会を立上げ、プロモーション案①～③を参考に市民の認知度向上に向けたプロモーション戦略を立案。認知率向上に向けては、市民と「スケボーのまち まつばら」のタッチポイントを多数置きリーチを増加させる必要がある。認知率向上後は、市民を巻き込んだ活動の促進により、市民のファン化を狙う

【プロモーション案】

- ① 広報誌・回覧板で「スケボーのまち まつばら」の特集を掲載
- ② 「スケボーのまち まつばら」のロゴやパンフレット・ポスターの作成
- ③ 市役所や駅等の区画に「スケボーのまち まつばら」のモニュメント等の掲示

広報誌・回覧板



市民スケートボーダーの活躍や市内イベント情報を発信

フリーロゴ（アイコン）



協力いただける市内事業者が社屋や店舗へ掲載

パンフレット、チラシ



人が集まる場所に掲載

市外に向けて「スケボーのまち まつばら」の普及に向けたコンテンツを制作し、発信を行います

アクション【13】市外向けPR

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 「スケボーのまち まつばら」を広めるためのコンテンツ制作と全国に向けた発信を行う 	施策
目的	<ul style="list-style-type: none"> 市外から「スケボーのまち まつばら」の認知を獲得 	
KPI	<ul style="list-style-type: none"> プロモーションムービーの再生回数 市外からの認知度 	
ステークホルダーと役割		
<ul style="list-style-type: none"> 指定管理事業者：PR素材撮影場所の手配 トップボーダー等：プロモーションムービー他の各種PRコンテンツへの出演 プロモーション事業者：プロモーション方針の制定、各種PRコンテンツへの出演者検討・交渉、PRコンテンツの制作・発信 		
収益	<ul style="list-style-type: none"> 対象外（パーク利用料） 	コスト <ul style="list-style-type: none"> 演者への出演料 各種PRコンテンツの制作料（人件費、場所代等）
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 「スケボーのまち まつばら」まちづくり戦略に基づいたプロモーション方針の制定 各種PRコンテンツの制作者／発信者の選定 各種PRコンテンツの方針（出演者、撮影場所、コンテンツ内容、頻度、使用媒体）の検討 	

ステークホルダーによる検討会を立上げ、プロモーション案①～⑥を参考にコンテンツを検討。将来的には、市民やパークの来場者が自発的に発信する仕組みを構築する

【プロモーション案】

- ① トップボーダーによるプロモーションビデオ
- ② 松原市の総合的なまちづくり戦略の内容を発信
- ③ 市民を巻き込んでスケボーに関わるギネスへチャレンジし発信
- ④ 市の代表者によるスケボーへのチャレンジと発信
- ⑤ SNSによる「スケボーのまち まつばら」の発信

PV



市内外の若者が自発的に拡散したくなるPV制作

SNS



各種SNS媒体で情報発信

まちづくり戦略



松原市の総合的な「まちづくり戦略」を発信

「制度整備」とは「スケボーのまち まつばら」を経済的に盛り上げるための事業連携や各事業を支える制度を整備します

テーマ：制度整備

制度整備とは

「スケボーのまち まつばら」を経済的に盛り上げるための事業連携や各事業を支える制度を整備する

産業振興

資金確保

概要

- 「スケボーのまち まつばら」に関する施策と市内事業者が連携・事業開発するための仕組みを整備する

- 「スケボーのまち まつばら」実現に向けた施策実行に伴う財源確保に向けた仕組みや制度を設計する

初期事業
選定方針

- 地域事業者がスケボーを活用し、産業振興に資する事例の創出により、機運を醸成する

- まちづくり事業の資金を確保できるような仕組みを整備する
- まちづくりへ協力的な企業の抽出・連携促進を実施する

14 新規事業開発支援

15 寄付制度の充実

アクション

- スケボーを活用した事業立ち上げを見据えた検討会を立ち上げる
- 「スケボーのまち まつばら」のを活用した新規事業を公募し、複数実現を支援する。事業の黒字化・自立運営はもちろんのこと、「スケボーのまち まつばら」の浸透に寄与する

- 「スケボーのまち まつばら」に係る事業費への寄付制度を充実させ、まちづくりへの貢献事業者としてマッチング支援やPR支援、税制優遇等の制度・仕組みの設計・周知を行う

地域事業者が「スケボーのまち まつばら」を活用した事業立ち上げや、事業連携を促進するきっかけを作ること、産業振興のきっかけを生み出します

アクション【14】新規事業開発支援

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> スケボーを活用した事業立ち上げに向けた検討会を立ち上げる スケボーを活用した新規事業を公募し、支援する 	施策													
目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域事業者がスケボーを活用し、産業振興に資する事例の創出により、機運を醸成する 	ステークホルダーによる検討会を立ち上げ、スケボー×事業が生まれる制度について検討を行う <ul style="list-style-type: none"> 既存事業者の「スケボーのまち まつばら」への関与意向を醸成しつつ、産業の活性化に繋げる 事業の立ち上げに向けて一部市の助成を活用する 													
KPI	<ul style="list-style-type: none"> スケボー関連事業の立ち上げ件数 スケボー関連事業の売り上げ額 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Step</th> <th>概要</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1048 644 1172 768">Step1</td> <td data-bbox="1193 644 1379 768">検討会の立ち上げ</td> <td data-bbox="1400 644 1976 768"> 「スケボーをテーマとした事業立案・事業連携についての意見交換・意向醸成 (例)×食、×金網、×ファッショ、×スケボー、×イベント </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1048 772 1172 896">Step2</td> <td data-bbox="1193 772 1379 896">事業公募の実施</td> <td data-bbox="1400 772 1976 896"> 新規事業の意向が一定ある場合、新規事業を公募し、初期費用の一部を助成 (例)上限30万円、対象経費の2/3支援等 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1048 901 1172 1025">Step3</td> <td data-bbox="1193 901 1379 1025">事業の自走化 事業数の増加</td> <td data-bbox="1400 901 1976 1025"> 事業の黒字化・拡大支援 新規事業・事業連携のさらなる増加 </td> </tr> </tbody> </table>		Step	概要	概要	Step1	検討会の立ち上げ	「スケボーをテーマとした事業立案・事業連携についての意見交換・意向醸成 (例)×食、×金網、×ファッショ、×スケボー、×イベント	Step2	事業公募の実施	新規事業の意向が一定ある場合、新規事業を公募し、初期費用の一部を助成 (例)上限30万円、対象経費の2/3支援等	Step3	事業の自走化 事業数の増加	事業の黒字化・拡大支援 新規事業・事業連携のさらなる増加
Step	概要	概要													
Step1	検討会の立ち上げ	「スケボーをテーマとした事業立案・事業連携についての意見交換・意向醸成 (例)×食、×金網、×ファッショ、×スケボー、×イベント													
Step2	事業公募の実施	新規事業の意向が一定ある場合、新規事業を公募し、初期費用の一部を助成 (例)上限30万円、対象経費の2/3支援等													
Step3	事業の自走化 事業数の増加	事業の黒字化・拡大支援 新規事業・事業連携のさらなる増加													
ステークホルダーと役割		コスト													
収益	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業の売上 	<ul style="list-style-type: none"> 事業立ち上げに係る経費への助成(上限指定) 													
要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 企業の温度感を踏まえた、意向醸成に向けたステップの実現性 														

「スケボーのまち まつばら」実現に向けた事業への寄付制度を整えることで、企業の事業連携及びPRを加速し、産業振興に寄与します

アクション【15】寄付制度の充実

施策概要	<ul style="list-style-type: none"> 「スケボーのまち まつばら」実現に向けた事業費への寄付制度を充実させ、まちづくりへの貢献事業者としてマッチング支援やPR支援、税制優遇等の制度・仕組みの設計・周知を行う
目的	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり事業の資金を確保できるような仕組みを整備 まちづくりへ協力的な企業の抽出・連携促進を実施する
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 「スケボーのまち まつばら」関連事業への寄付件数 「スケボーのまち まつばら」関連事業の寄付額

ステークホルダーと役割

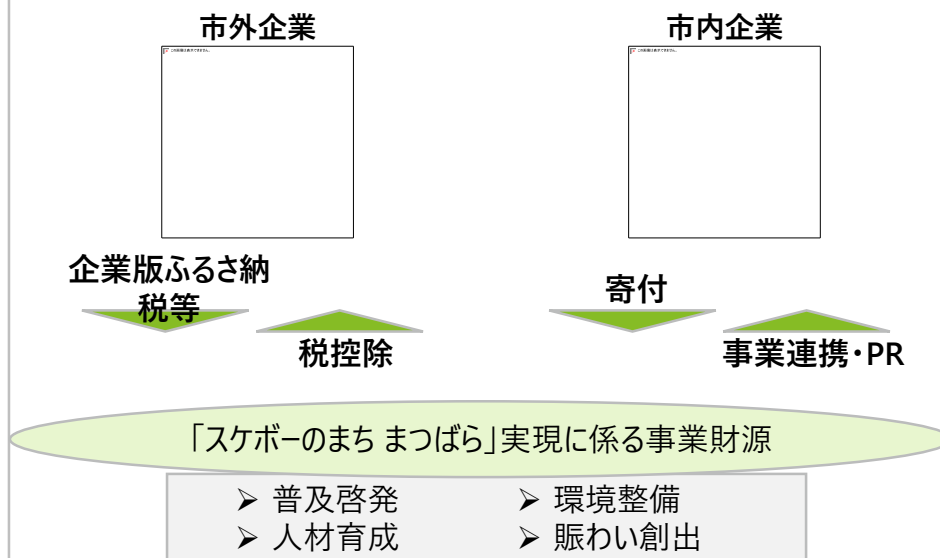
- 松原市：制度主管
- 松原市商工会議所：寄付への参画、事業者呼びかけ
- 松原市青年会議所：寄付への参画、事業者呼びかけ

収益	<ul style="list-style-type: none"> 企業寄付
-----------	--

要検討事項	<ul style="list-style-type: none"> 企業の温度感を踏まえた、意向醸成に向けたステップの実現性 寄付をした企業に対しては、松原の各団体にPRできるスキームを整備できるか
--------------	--

施策

ステークホルダーによる検討会を立上げ、「スケボーのまち まつばら」に係る事業の財源獲得に向けた仕組み・制度を構築する



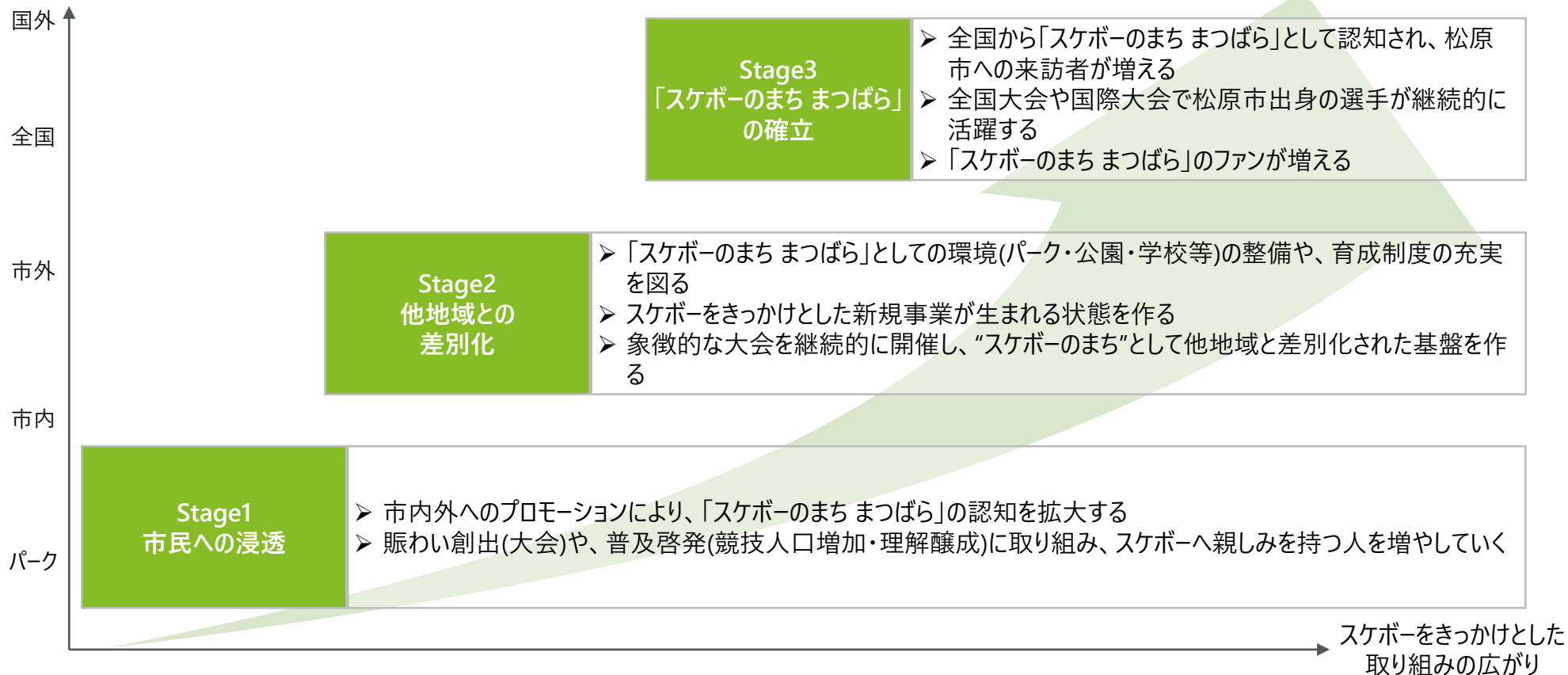
コスト	<ul style="list-style-type: none"> 「スケボーのまち まつばら」実現に係る事業経費
------------	---

4. 次年度以降の取り組みについて

「スケボーのまち まつばら」は、まずは市内の普及啓発を中心にスモールスタートではじめ、実績を積み上げながら松原市らしさを尖らせ、認知及び取り組みを拡大していきます

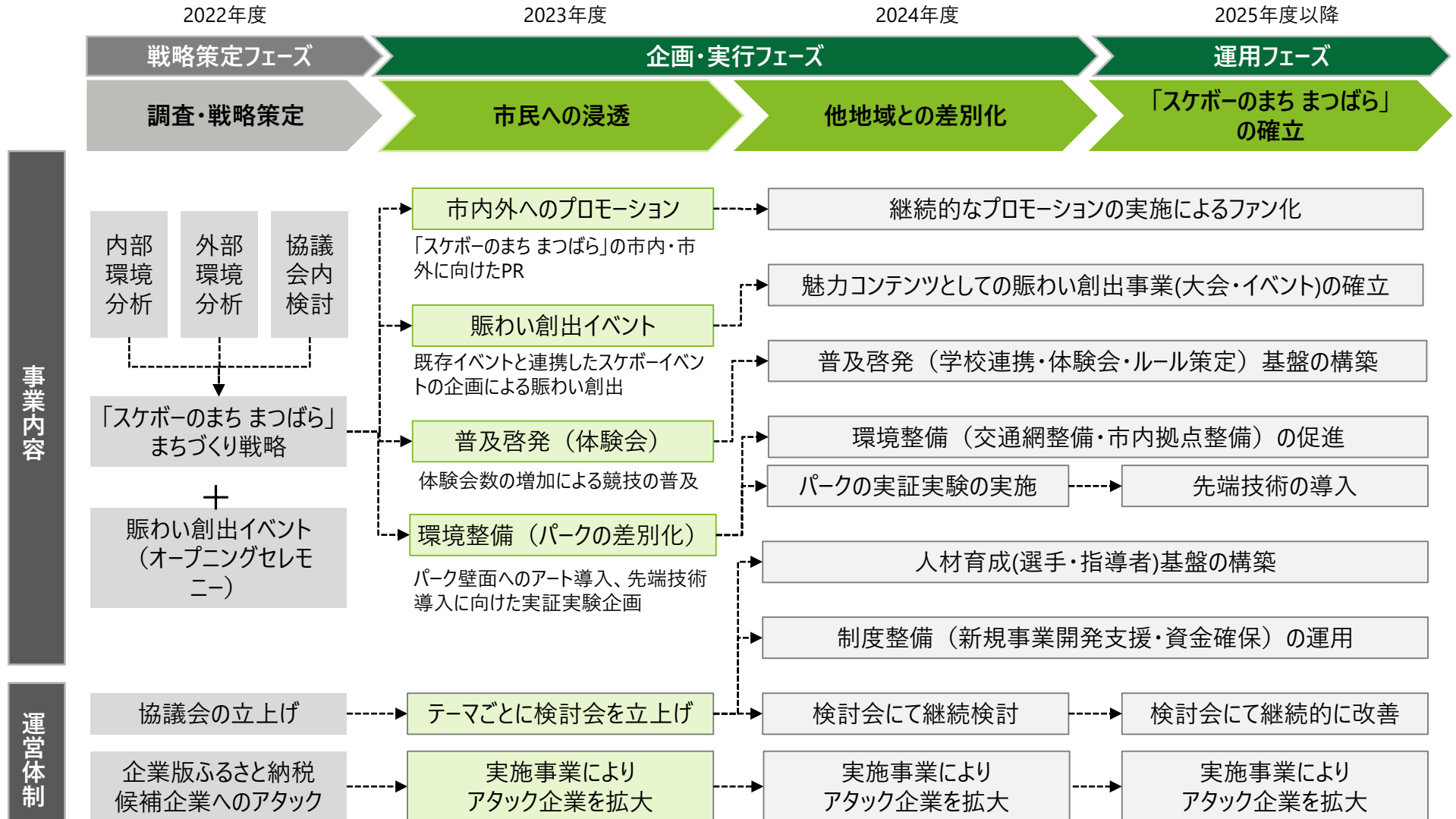
「スケボーのまち まつばら」の実現に向けたステップ

認知の範囲



まちづくり戦略に則り、1、2年目は検討会を立上げ、施策の企画から実行・検証までをアジャイル的に実施し、3年目には「スケボーのまち まつばら」として確立させます

「スケボーのまち まつばら」の事業計画



来年度からの2年間でアクションの実現性や優先度を見極め、「スケボーのまちまつばら」実現に向けた有用性を検証し、2025年度には各アクションが自走できる状態を目指します

ロードマップ

凡例： 検討・企画 実施 実施（自走）

テーマ	方針	アクション	2023年度	2024年度	2025年度
普及啓発	競技人口増加	1 学校連携	検討・企画	学校連携連携	学校連携定着
		2 賑わいの場での体験会	検討・企画 体験会	体験会（開催頻度・回数は徐々に増加）	
	理解醸成	3 スケボールール制定	検討・企画	一部地域に適用	全市内適用
人材育成	選手	4 強化指定制度の構築		検討・企画 テスト運用	正式運用
	指導者	5 地域おこし協力隊の活用		検討・準備	採用
環境整備	交通網	6 松原市内の交通網整備	利用状況・ニーズ把握	検討・企画	整備・運用
	パーク	7 先端技術導入	検討・企画	実証実験	本格運用
		8 パーク壁面へのアート	検討・企画	実装	
	市内空きスペース	9 スケボー拠点整備		検討・企画 テスト実施	適宜整備・拡大
賑わい創出	大会	10 スケボー大会開催	検討・企画 開催	開催	開催
	イベント	11 市内イベント連携	検討・企画 開催	開催	開催
プロモーション	インナープロモーション	12 市内に向けたPR	戦略立案	コンテンツ制作・発信	市民のファン化
	アウトタープロモーション	13 市外に向けたPR	戦略立案	コンテンツ制作・発信	自発的な発信促進
制度整備	産業振興	14 新規事業開発支援	検討・制度整備	テスト運用	運用
	資金確保	15 資金確保制度の充実	検討	制度整備	運用

參考資料

分科会が出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (1/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
普及啓発	競技人口増加	1 スケボーやリュック配布	松原市の全世帯にスケボーを無料配布。またボードを背負って自転車に乗れる用のリュックを配布
		2 高齢者や親子の体験	高齢者や親子まで体験してもらい、生涯スポーツとしての普及
		3 小学校の遠足や職業体験	スケボーパーク、スポーツパークへの遠足を実施するパークで体験会参加やデモンストレーションを観覧
		4 学校へのスケボー配布	賛同する民間事業者のステッカーが貼ってあるスケートボードを学校で組み立て、配布
		5 保護者の負担軽減策	スケボーを楽しむ子供を持つ親に向けて、スケートパークへの送り迎えのサポート
		6 授業でのスケボー教室開催	地元の幼稚園・保育園、各学校と連携したスケボー教室開催。また対象者にはパークの割引をする等、子どもたちにきっかけを提供
		7 出張体験会の開催	人が集まる場所で、キッズ向けに実施すれば、多くの親子を獲得→もっと興味がある子はパークへ誘導
		8 部活動づくり・部活動の地域移行事例づくり	中学生の部活にスケボー部、地域クラブを設置
	理解醸成	9 高齢者施設への導入	高齢者施設のプログラムの一環として、スケボーを導入
		10 高齢者への普及	高齢者の方が集うコミュニティへのPR。スケボーエクササイズ等
		11 スケボー条例の制定	スケボーをしない人への理解醸成、する人にとってはマナー向上。市の取り組みとしても独自性がある、スケボーの街としてブランディングが期待
		12 スケボーの日（→イベント）の制定	スケボーの日を設けて、商店街や道路を貸し切りイベントを実施
		13 シルバー人材の活用	高齢者やシルバー人材にスケボーパークの警備を依頼（登下校の旗振りボランティアのイメージ）

分科会が出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (2/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
人材育成	選手	14 合宿誘致	スケボーチームの合宿誘致による観光、交通、宿泊等の活性化。スケボーのまちを印象付け
		15 遠征支援の実施	松原市の選手が海外遠征をする時に資金支援、奨学金制度
		16 教育プログラムの作成	スケボーを活用した教育プログラムを作成
	指導者	17 地元企業のスポンサー制度整備	スポンサーになりたい地元企業を集めて、集団で選手を支援する仕組み。遠征費等を支援
		18 地域おこし協力隊の採用	第一線で活躍するアスリートに移住してもらい、地域おこし協力隊としてスクールの開催や強化・指導等を依頼
		19 インストラクター養成学校の設立	指導者不足がスケボー業界では課題のため、指導者育成の街という認知が取れると、プレゼンスも向上

分科会が出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (3/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
環境整備	交通網	20 市内の交通網整備	松原市内の駅からパークまで巡回するバス等、交通網を整備
		21 スケボーレーンの整備	街中にスケボーが通れる道を整備。パーク同士を繋げて周遊できるような導線が理想
		22 駐輪場の駐輪可能台数拡充	スケートパーク利用者が使える駐輪場の、駐輪できる台数を拡充
		23 MaaSの提供	スケボーに関わる移動をMaaSとして提供
		24 オンデマンドバスの導入	オンデマンドバスの導入
		25 シェアサイクルの利用促進	スケートパーク付近にシェアサイクルスポットを設けて、交通の便を改善
		26 市外からの交通網整備	新大阪等の大阪府内の主要駅からパークまでの直行バスを開通
		27 送り迎え利用者に易しい駐車料金設計	送り迎えだけで駐車場を利用する方が多くなることが想定されるため、最初10分無料等の送り迎え利用者向けの料金設計を整備
	28 駐車場の料金設計	既存のパークにおいては、近くの複合施設の駐車場を使って送り迎えをしている親が多く、送り迎え用の駐車料金を設計	
	パーク	29 利用客のパフォーマンス動画販売	パークで行ったパフォーマンスを動画やデータとして来場者に提供・販売。選手のスキルの向上や初心者にはスケボーの思い出を提供
		30 最先端機器整備	スポーツテック企業等と連携し、撮影・編集・分析までを一貫して提供できる最新機器を導入
		31 怪我人へのケア体制整備	管理人室に応急処置ができる備品を用意したり、接骨院と予め連携し、怪我人が発生した際は素早く情報連携できるように準備
		32 ナイトパークの開催	ナイトプールのような雰囲気、スケボーの映像や音楽が流れる。スポーツバー、スケボーの映画を流すイベントを開催
		33 ネーミングライツの実施	スケボーにゆかりある企業等とネーミングライツの契約を実施
		34 観覧方法の整備	パークへの観覧スペース導入が難しい場合、常設カメラによるライブ中継を配信
35 カメラ設置		自分の好きなアングルで撮影できるようなカメラ設置	

分科会が出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (4/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
環境整備	パーク	36 パークにグラフィティを実施	パークのセクションや壁面にグラフィティを実施
		37 パークにデジタルアート	パークの壁に子供の描いた絵を投影するようなデジタルアートの導入 (https://www.ex-it-blog.com/teamLabBorderless)
		38 トップアスリート向け設備整備	3000平米、5~10億規模の世界基準のパークの整備
	市内空きスペース	39 市内の様々な施設をスケボーできるように開放	老朽化した施設や廃工場等、限られた空間をスケボーができる場所として提供。スケボーが走ってもOKな企業を誘致
		40 自主練可能なスペース設置	パークでなくても、近所の公園で少し滑れるスペースを整備
		41 BBQとのコラボ	松原市にあるBBQパークと連携し、特設会場等を設置
		42 廃学校でのスケボー体験	廃学校をパークとして改修し、運営
		43 校庭をスケボー用に開放	校庭内や、学校に隣接する場所で、スケボーができるように整備
		44 スケボー重点校の設立	ボーダーの育成環境が整った学校を重点校として、域外からの流入を促進
		45 スケボーマップを作成	スケボーができるスポットが分かるマップを作成
		46 空地の活用	地主から空きスペースを借りて身近なボードのできる場所の整備。空地を提供してくれた人には市長からの表彰や広報誌への掲載
		47 市民運動広場の活用	市民運動広場にスケボーができる場所を導入
		48 複合施設でスケボーができるようにスペース設置	親は買い物、子供はスケボーという過ごし方が生まれるように、複合施設内にスケボーができる環境を整備

分科会が出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (5/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
販わい創出	大会	49 大会の誘致	全国にPRができる大規模大会の誘致
		50 簡易大会開催の仕組みづくり	仲間内の大会、サークル活動等をライトに企画・運営できるような仕組みの提供
		51 団体戦の大会開催	個人戦ではなく団体戦で盛り上げられる大会を運営
		52 松原市大会の開催	市長杯が今もあるが、より尖ったor大規模な形で開催
		53 レベル別の大会実施	小中高大人社会人までのレベル別競技会の開催
	イベント	54 スケートボーダー交流イベント	スケートボーダー同士が交流できるイベントの開催
		55 ファッションショーの開催	スケボーのファッションショー開催
		56 祭りへのスケボーコンテンツ出店	盆踊りの輪投げのような敷居の低い遊び（何mまっすぐ滑れるか？）を用意して、祭りの1コンテンツとして出店
		57 六社参りをスケボーで実施	開運松原六社参りのコースをスケボーで巡回
		58 駅のホームで滑れる日導入	終電後の駅のホームで滑れる日を導入
		59 商店街・複合施設の開放	商店街や複合施設等、スケボーに興味がない人でも目に入る場所を、スケートボーダーに向けて開放
		60 年代別スケボーイベントの開催	小中高大人でカテゴライズしたイベントの開催。（高校生を増やしたい）
		61 音楽フェスとのコラボイベント開催	音楽フェスと連携したスケボーイベントの開催

分科会で出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (6/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
プロモーション	インナー プロモーション、 アウト プロモーション	62 生涯スポーツや危ないイメージをめぐえるPR	怪我しやすい印象が強い一方、まだまだ生涯スポーツの印象がないため、安全性や健康面のメリットを押ししたPRを実施
		63 市内コミュニティからのPR	老人会や、地域ごとの町会からPRを実施
		64 生涯スポーツとしてのPR	生涯スポーツとしての魅力を説明したPRを実施
		65 スケボーによる成長をPR	スケボーをすることによる心や体の成長やメリットをPR
		66 高齢者のスケボー動画でPR	80代のスケートボーダーによるPRを実施
		67 駅にスケボー×アートの作品を展示	駅にスケボー×アートの作品を展示
		68 スケボーに係るモニュメントの展示	駅や町中に、スケボーに係るモニュメントの展示（金網等を活用）
		69 ゆるキャラの作成	スケボーのゆるキャラを作成
		70 「スケボーのまちまつばら」のロゴ作成	「スケボーのまちまつばら」のロゴ作成
		71 スケボー展の開催	スケボーに関わる制作物や記念品の展示会を開催
		72 フィルマーによる動画配信	市で専属フィルマーを雇い、定期的にスケボー動画を発信
		73 「スケボーのまちまつばら」のステッカー作成	「スケボーのまちまつばら」のステッカー作成
		74 ハッシュタグ企画の実施	「スケボーのまちまつばら」に係るハッシュタグを活用した企画を開催
		75 SNSによる発信	スケボーに特化したSNSアカウントの設立。観光協会が運営
		76 松原出身の有名人コラボ企画	叶美香さん、flumpool、E-girls等、松原市出身の有名人とコラボした企画を実施
77 スケボー漫画の作成	漫画家とコラボして、スケボー漫画の作成を依頼		

分科会で出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (7/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
プロモーション	インナー プロモーション、 アウト プロモーション	78 市内イベントとのコラボ	スポーツチャレンジまつばらやまつばらマルシェとコラボする形で、スケボー体験会や、ミニコンテストを開催
		79 市内複合施設でのPR	スケートパークでの定期的な取り組みをまとめたポスターを作成し、人が集まる市内の複合施設等に掲載
		80 スケボーアイコンの使用	市が出すWebやポスター上の発信において、内容に関係なく常に松原市を示すアイコンとしてスケボーアイコンを作成・掲載
		81 商店街へのタペストリー陳列	市内商店街にてスケボーに関するタペストリーを陳列
		82 映画／ドラマ／MVへの素材提供	映画やドラマ、ヒップホップ等のMVに、松原市のスケートパークで録った動画を提供
		83 市役所に「スケボーのまち まつばら」に関するスペースを設置	「スケボーのまち まつばら」に関するスペースを用意し、イラストの展示やパークと連動したコンテンツを用意
		84 各イベントへのトップ選手の活用	全国への発信にはトップ選手に協力してもらうことが重要

分科会で出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (8/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
制度整備	産業振興	85 インテリアブランド立ち上げ	使い古したデッキのDIY等を行うインテリアブランドを立ち上げ
		86 スケボー探究活動の実施	なぜスケートボードは走るのか？どのような構造になっているか？等を、理系チックに深く探求する活動を実施
		87 スケボーと観光地のコラボ	観光客に松原とスケボーとの関係性をより楽しんでもらえるように、駅や公共施設にモニュメントを配置したり、観光関係事業者と連携
		88 スケボーツアーの開催	市外のスケートパークを含めて周遊マップを作成し、ツアー参加者限定の利用特典等を設計
		89 市内観光資源×スケボーコンテンツの開発	よろしおあがり旅等の観光資源にスケボー要素を組み込んだ限定プランを提供
		90 神社仏閣でのスケボー体験	歯の神様がいて有名な柴籬神社や恋みくじで有名な布忍神社等の市内の神社仏閣で、スケボーが滑れる限定イベントの開催
		91 スケボーカフェの設立	スケボー好きの人が集まるカフェや飲食店を誘致
		92 スケボーにゆかりある企業とコラボ企画を開催	スケボーにゆかりある企業等とコラボしたイベントを企画・開催
		93 スケボーショップの開業	スケートパークに併設するようなスケボーショップを開店
		94 ユニフォームの作成	松原市でユニフォームを作成し、仲間意識醸成を画策
		95 デッキの裏にアート制作	デッキの裏に地元アーティストが絵を描き、販売
		96 宿泊施設や飲食店からの休憩スポット提供	ボーダーに対して荷物預かりや着替え場所、トイレが使える場所として宿泊施設や飲食店がスペースを提供
		97 イベント特典での地元事業者との協力	イベント特典で、地元の食べ物や地元施設利用券を配布
		98 アパレルブランドの立ち上げ	ストリートカルチャーに寄ったアパレルブランドの立ち上げ
99 スケボーに合った楽曲の制作	スケートパークで流す曲を、地元のアーティストが制作		

分科会が出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (9/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
制度整備	産業振興	100 スケボー-NFTの開発・販売	スケボーに関わるNFTとして、トップ選手のパフォーマンス動画やスケボー×アートの作品をNFT化して提供
		101 スケボークーポン・地域通貨の導入	スケートパークの利用やイベントの参加によってポイント（地域通貨）貯めて、連携している特産品、飲食店、商店街で利用
		102 スケボーファンクラブの創設	まつばらスケボーファンクラブを設立し、施設利用やイベント参加に関する特典やクーポンを提供
		103 メタバース空間上に、スケートパーク創設	メタバース空間上にスケートパークを創設し、スケボーを疑似体験
		104 メタバース空間上で、スケボーの試合を観戦	市内で開催されるスケボーの大会を、メタバース空間上で、多視点から観戦
		105 スケボースナック/バーの設立	子供たちが練習している間に、送り迎えをしている親がくつろげるようなスナック/バーを設立
		106 スケボーシューズの開発	スケボーに適したシューズを地元企業で開発
		107 マッチングアプリの開発	その日スケボーで遊ぶ友達“乗り友”を探せるマッチングアプリを開発

分科会で出た117のアイデア一覧です

分科会結果 事業アイデア (10/10)

大分類	中分類	アイデア	概要
制度整備	産業振興	108 特産品とのコラボフードの開発	カレー、鴨、ネギ等の市内特産物とコラボしたフードを開発
		109 ストリートフードの開発	学生が手を出しやすい200円程度の価格帯で、松原バーガーのように片手で食べれる地元食材を用いたフードを開発
		110 系列店割引制度の導入	プロ野球のように、どこかのクラブチームや部活が活躍したらスポンサーである系列店が割引キャンペーン開催するような制度を導入
		111 スケートパーク内のレイアウトの定期的な改修	地元の建設企業と連携し、スケートパークのレイアウトを定期的に改修
		112 まつばらの地場企業でスケボー開発	地元企業が協力して最高級のALL松原産のスケボーデッキを開発。ふるさと納税の返礼品として設定
		113 スケボー×キッチンカー	大会やスケートパークに、地元食材を使ったキッチンカーを誘致
		114 スケボーワークショップの開催	市内にあるベアリング事業者との連携による、スケートボード開発・ワークショップの開催
		115 大阪府スケボースタンプラリーの実施	大阪府内の各都市と連携して、スケートボーダーが色々なパーク・主要施設を回って楽しめるように導線を整備
	資金確保	116 事業者マッチング／応援企業制度	「スケボーのまち まつばら」に向けた取り組みを応援する企業に向けた制度で、大会開催する際には応援企業がスポンサーに
		117 「スケボーのまち まつばら」参画事業者融資事業	#116にて応援制度に入っている企業を優先した融資制度